

PMAJ Networking (会員交流会)
参加者アンケート結果 (まとめ)

事務局

第 22 回「PMAJ ネットワーキング」2017 年 2 月 16 日 (木) 18:00~21:00

「中小零細企業における企画の実態と新たな可能性について」

～事業承継者の立場から～

by 西川 喜久 (株式会社西川精機製作所 代表取締役)

概要:

「ヒト・モノ・カネ」が潤沢とはいえない中小零細企業において、現在の事業が収益を向上し続けるとはだれも断定できません。そのただでも不確実性の高い中小企業において、創業時代のニーズが移り変わってきている会社の承継者にとっては、まさに新事業を生み出し、時代に対応した会社へ業態変化をする事が必要不可欠です。

今回は、特にその 3 要素 (ヒト・モノ・カネ) を持ちえない弊社が取り組む、数多くのプロジェクトから生まれてきた新事業の可能性を検証し、大企業と同じ事は出来ずとも、中小企業ならではのプロジェクトのあり方・創成の可能性やその重要性をご紹介します、参加者の皆様とご議論出来ればと思っております。忌憚の無いご意見を頂ければ幸いです。

プロフィール: 西川 喜久 (にしかわ よしひさ)

株式会社西川精機製作所 代表取締役

1965 年 (昭和 40 年) 生まれ。

1988 年 日本大学農獣医学部卒業。

同年 表面処理設備器具メーカー (株) 西川精機製作所入社。

1999 年 (株) 西川精機製作所 代表取締役就任。

2009 年 金属部品メーカー (有) 木村工機 取締役社長就任。

2011 年 医療機器製造販売会社 (株) 中川製作所 代表取締役就任。

昨日は「第 22 回 PMAJ Networking (会員交流会) -2/16」に参加頂きありがとうございます。「中小零細企業における企画の実態と新たな可能性について」というテーマで話題提供頂きました、西川喜久さん (株式会社西川精機製作所 代表取締役) に改めましてお礼申し上げます。事業承継者というお立場から、時代に対応した新たな創業に向け、さまざまなプロジェクトに挑戦されている様子をご紹介頂きました。

(1)基盤技術を活かした業態変化で新分野に挑む：「部品加工受託から製品製造受託へ」

・つながる町工場プロジェクト：「ものづくりのワ」プロジェクト

→同業他社3社でゆるやかなネットワークを構築し、受発注システムを共有することで、それぞれの得意技術を活かしながら幅広い顧客ニーズに対応できる体制を構築した。

→競合関係と受け止められがちな同業者も細かく見ていくとその得意分野は異なる。それをIOT技術でつなぐことで商機を拡大する戦略は一種のエコシステムといえるものです。

(2)介護・福祉分野への挑戦：「人のためになるものを創れ！」（先代からの教え）

・車椅子使用者用ボーリング投球機の開発：「INU (I need you.) プロジェクト」

→クラウドファンディングを活用し開発資金を調達し、日本発の新しいユニバーサルスポーツを世界に発信したいと挑戦中。

→2016年度「世界発信コンペティション」で「東京都革新的サービス特別賞」を受賞した。

(3)芸術・デザイン分野：「デザインを取り入れた新しい製品を！」

・芸術に特化した製品開発プラットフォーム：「交場」プロジェクト（「共創の場」）

→東京藝術大学との連携により、「アイデア×技術力×デザイン＝新しい価値創造」を目指す。

→「プロダクトデザイナー×金工作家×町工場職人」、それぞれの強み弱みを活かした産学連携事業

→協業による人材育成も期待⇒・新商品開拓・技術向上・OJT・モチベーション向上

→平成28年度東京都地域中小企業応援ファンド助成事業に採択！

(4)地域貢献・人材育成の取り組み：「ものづくりの魅力を伝える」

・子ども未来館子どもアカデミー：「町工場サイエンス」

→町工場の職人さんとミニアーチェリーを作ってみよう！「体験・見る・触る」

→インターンシップ、共同研究（産学連携）、学生・卒業生とのコラボプロジェクト、という長期展望に基づき「職人魂」を持った人材育成を目指す。

参加された方々からは、「夢と愛のあるお話に感銘を受けた」「新たなビジネスモデルに発展するのではないか」「リーダーのあるべき姿を紹介頂いた」という感想と、「社長のアイデアや行動に社員はついていけているのか？」「今後、どのような方向に進まれるのか？」といった質問も出されました。取り分け、共創により新たな製品を生みだすサイクルは実現できていますが、それを如何に事業として立ち上げていくかに苦労されているようで、「お力添えをお願い致します！」というお話もありました。

一つのアイデアとして、モノ創りの「交場」に加えてマーケティングの「交場」も立ち上げて、その場にシニアや専門家も参画し、若者との共創を通じて事業化に貢献するというシナリオは如何でしょうか？

何れにしましても、今後の中小企業のあり方の夢ある一端をご紹介頂きました。是非、大きな花を咲かせられるよう！ ますますのご発展をお祈りいたします。

(ご参考：活動中のプロジェクト一覧)

(1) 交場プロジェクト <http://www.coba-meets-nss.com/>

・ FB ページ <https://www.facebook.com/交場プロジェクト-1579089455705257/?fref=nf>

・ 日本経済新聞 2016/10/26 付朝刊「江戸川の町工場、若手デザイナー後押し西川精機製作所、コスト管理や量産法提案」

・ 株式会社ビッグライフ社「BIGLIFE21」 <http://biglife21.com/companies/10799/>

・ 後藤宙氏 Tokyo Midtown Award 2016 アートコンペグランプリ受賞作品製作協力

<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/result/2016/art.html>

・ 馬淵晃氏富山デザインコンペティション最優秀賞受賞作品製作協力

www.toyamadesign.jp/support_program/.../news_vol37.pdf

(2) INU プロジェクト <http://inu3.jp/>

・ FB ページ <https://www.facebook.com/inuproject/>

・ クラウドファンディング成功 zenmono 町工場の技術を車いすの子供達へ～ボウリング投球補助機の開発～

・ 東京都主催「世界発信コンペティション」特別賞受賞

<https://www.sekai2020.tokyo/competition/result/>

(3) つながる町工場プロジェクト <http://www.machikoba.tokyo/>

・ 9/10 放送 NHK BS1 経済フロンティア特集「ITが町工場を変える！」

・ 各誌新聞等多数紹介

江戸川区町工場サイエンスプロジェクト

・ 江戸川区民ニュース

<https://www.facebook.com/projectEDO/posts/977339949009880>

<http://www.news.city.edogawa.tokyo.jp/.../movie/movie2414.html>

(4) 空飛ぶ泳ぐ車いすプロジェクト

<https://www.facebook.com/masamichi.hayashi.902?fref=nf>

(5) 下町サミット東京 24 区構想プロジェクト

・ 直近イベント https://peraichi.com/landing_pages/view/ssis

(6) Asu-Kachi プロジェクト

・ FB ページ <https://www.facebook.com/asukachiproject/>

Re2 プロジェクト Rehabilitation+Relationship

(7) 学生支援プロジェクト

神奈川県学生フォーミュラプロジェクト KURAFT への部品供給支援

・ <https://www.facebook.com/kuraft.kanagawa.u/?fref=ts>

ロボット開発大学生グループ TryBots/トライボッツロボット-Robot への部品供給支援

・ <https://www.facebook.com/trybots/?fref=ts>

(8) 産学共同開発連携プロジェクト

東京藝術大学

・ 東京都主催産学連携デザイン開発イノベーション事業

<http://kinou-sekkei.tumblr.com/>

<https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/jigyo/argus21/pdf/1509argus442.pdf>

日本大学生物資源科学部国内需給率向上に向けた農業機材開発

第21回「PMAJ ネットワーキング」2016年12月15日(木) 18:00~21:00

「すごい会議 - コミットメントをいかに引き出すか!」

by 水野 浩 (株式会社ビジネス・ブレイクスルー)

概要:

書籍「すごい会議 - 短期間で会社が劇的に変わる!」はご存知でしょうか?

この「すごい会議」のやり方をマスターすると、「短期的で明確で共有共感された目標が立つ」「目標を実現するための最適な役割と責任分担が明らかになる」「なにを誰がいつまでに実行し成果を出すかが明らかになる」「解決策がわからない問題にシステムティックにアプローチし解決できるようになる」といったことが手に入ります。またこれらを実行する上で、「約束を尊重する」「問題の指摘だけをせずに提案をする」といった経営者が部下に期待していてなかなか手に入りにくいことが、全社レベルで手に入れることができます。このすごい会議の「コミットメント、メジャーメント」に関する映像をご視聴頂き、皆様とコミットメントの引き出し方に関して議論できれば幸いです。

プロフィール: 水野 浩 (みずの ひろし):

株式会社ビジネス・ブレイクスルー コンテンツ企画部 マネジャー

1976年熊本県生まれ。大学卒業後日本無線株式会社にて衛星通信装置の研究開発に参画し、組込ソフトウェアの開発に携わる。2006年より松下電器産業株式会社にてカーナビゲーションシステムの開発に参画し、アーキテクチャ設計を担当。2012年より三菱電機株式会社にてファクトリーオートメーションの製品企画を担当。現在は株式会社ビジネス・ブレイクスルーにてプロデューサーとしてマネジメント教育のコンテンツを企画している。

昨日は「第21回 PMAJ Networking (会員交流会) -12/15」に参加頂きありがとうございます。「すごい会議 - コミットメントをいかに引き出すか!」というテーマで話題提供頂きました、水野浩さん (株式会社ビジネス・ブレイクスルー) に改めましてお礼申し上げます。

今回は趣向を変えまして、「すごい会議」の映像コンテンツ（講師：大橋 禅太郎）を紹介頂き、それに対するコメント及びファシリテーションを水野さんが行うという形で行われました。「すごい会議」の”すごい”とは、どういうことか？ 会議の進め方において、「目からうろこ」というヒントを期待されての参加が多かったようです。

これに対して、“すごい”とはキャッチコピーとしての書籍名に過ぎないという説明でしたのでビックリしました。書籍を 50 万部販売するというターゲットありきで、それを実現するためのアイデアとして、“すごい”というタイトルが決められたそうです。このように、大きいターゲットを設定する又は曖昧なターゲットを設定して、アイデアの創発を促すことが重要というイントロでスタートしました。簡単にはできない目標を設定し、新たなアイデアを創出し、自らがコミットすることで、“すごいこと”を実現することにネーミングの由来があるようです。

これ以外にも、下記のようなコンセプトの紹介がありました。

- ・マイルストーン（戦略的道のり）は右側から決めていく（バックキャストイング）
- 目標→計画→実行をシステムティックなアプローチを行う
- ・自らやるという所有感（オーナーシップ）を醸成する
- 自分が設定した目標と他人から与えられた目標ではどちらがやる気につながるか
- ・責任者と担当者を決めコミットメント（組織の約束）を明確にする
- 担当：遂行する手段を持っている状態、一回り大きい目で見える
- 責任：遂行する手段を持っていなくてもする約束、全員で 100%のコミットメントする
- ・コメントの交換ではなく、事実と提案の交換の場にする
- 書くことで見える化しシェアする（共有する）
- 判断しないで聴く、受け止め、受け入れる
- ・アイデアをグルーピングしタイトルをつける
- 目標にニックネームをつける
- ・多数決ではなくアンケートを基に意思決定する
- ・議論するメンバー数は 6 人位が最適

これに対して、参加者からは「PM の遂行プロセスと同じではないか、どこが違うのか？」という疑問も提示されました。日本の会議のやり方は、相変わらず「言いばなし、聞きっぱなしで、何も決まらない」という低い生産性にあります。このような現状から、改めて「会議のあり方」が注目されているのかも知れません。P2M のフレームワークの中で、会議のあり方を「共創の場」として整理し、ファシリテーションも含めプロモートしていく必要性を感じました。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：8 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：6 件、NO：1 件、他：1 件）

- ・半々です。

質問 2 : 今後も「P2M クラブ」に参加されますか？ (YES : 6 件、NO : 1 件、他 : 1 件)

質問 3 : プログラム構成 (全体) について？ (良かった : 5 件、改善の余地あり : 3 件)

質問 4 : 今回の話題提供について？ (良かった : 6 件、改善の余地あり : 2 件)

(コメント)

- ・非常に分かり易く実践しやすい内容だった。
- ・会議で決めたことをすぐ実行してくれる仕掛けを理解した。
- ・会議参加者がどのように意識が変わるか、何がきっかけかを理解する。
- ・大崎さんご自身の話ではなく、大崎さんの考えていることを水野さんが喋るという建付けでしたので、発表する方も「自分事」感が持ちにくいように感じました。

ただ、「話題提供」という意味ではよい内容を聞けたと思います。

質問 5 : Networking (参加者交流) について？ (良かった : 5 件、改善の余地あり : 2 件、その他 : 1 件)

質問 6 : 事務局対応について？ (良かった : 5 件、改善の余地あり : 3 件)

質問 7 : 「Networking (会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES : 0 件/NO : 4 件/Other : 4 件)

- ・相談ください。

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(コメント)

- ・PM マイスターの参加費を 2,000 円位にした方が良いのではないかと？
- ・参加者の集合写真を公開 (拒否した人は除く)

→次回からトライしたいと思います。(事務局)

- ・メールします。

→お待ちしております。(事務局)

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

- ・あらためて！

→お待ちしております。(事務局)

質問 10 : その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください！

- ・Q : 今日のゴールは？ (より良き時間とする為に！！)
- ・A : どう PM の遂行に関連付けられるのか、役立つかを知りたい。
- ・今回はありがとうございました。個人的には、求めていたテーマについて新鮮な考え方に触れることができ有意義でした。

第 20 回「PMAJ ネットワーキング」2016 年 10 月 20 日 (木) 18 : 00 ~ 21 : 00

「グローバル PM の新潮流と 80 年代の日本のマネジメント + α 」

by 小原 由紀夫 (米国ケイデンスマネジメント社認定講師)

概要：

PMBOK®を発行する米国 PMI®は毎年グローバル会議を北米で開催し、グローバル PM が、不確実性、スピード、多様性について議論しています。会議の 100 以上のセッションの 66%は日本の PM 大会ではあまり取り上げられていないテーマ「アジャイル、変革、チーム」です。この会議に 2012 年から 4 年連続で参加し、グローバル PM の潮流は、日本の 1980 年代のマネジメントにいくつかの要素を加えたものであることが分かってきました。それらを踏まえて、プラスのリスクや組織構造が PMBOK®に記載された背景、日本生まれアメリカ育ちのアジャイル開発、などの分析を提供致します。

(できれば、9 月に開催されるグローバル会議の最新動向も提供したいと考えています。) 日本の強みを再認識し、今後の日本の成長やイノベーションの方向性について、皆様と親しく議論できれば幸いです。

プロフィール： 小原 由紀夫 (こはら ゆきお)：

株式会社富士通アドバンストエンジニアリング 人材開発室長

富士通入社後、転籍を経て現職。20 年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。グローバル PM メソドロジーと TPS のセミナーと実践支援をしている。PMP®。PMAJ 会員。PMI®会員。

米国ケイデンスマネジメント社 (PMI®グローバル・チャーターレベル R.E.P) 認定講師。PMAJ-IT-SIG TPS に学ぶ PM-WG 主査。

昨日は「第 20 回 PMAJ Networking (会員交流会) -10/20」に参加頂きありがとうございます。12 名の方に参加頂きました。

「グローバル PM の新潮流と 80 年代の日本のマネジメント+α」というテーマで話題提供頂きました、小原由紀夫さん (米国ケイデンスマネジメント社認定講師) に改めましてお礼申し上げます。

日本のマネジメントとグローバル PM に関して、長年蓄積されてきた豊富な知見をベースに、日本のマネジメントの「昨日、今日、明日」につきまして、非常に分かりやすく説得力のあるお話を頂きました。その後の活発な議論も含め、参加された方々からは、有意義であった、参考になったという高評価を頂いています。

グローバル PM の潮流として「PMI グローバル会議」でのセッション比率では、アジャイル (イノベーション) + 戦略 (ポートフォリオ) + 変革 (プログラム) + 組織 (ステークホルダー) + チーム (リーダーシップ) で、全体の 66%の構成になっているのに対し、日本の PM 大会では基本的に業種別の構成になっている。日本で何故アジャイルが普及しないのか? という問いに対して、組織文化、契約の縛り、理解不足など・・・さまざまな観点から議論が展開されました。業種の違い (エンジニアリング業界 or IT 業界) による、PM 活用の違いも指摘されました。PM がマイナスのリスク (脅威) 対応にのみに

使われ、プラスのリスク（好機）に挑戦するために活用されていないという指摘もありました。つまりは日本企業が、PMを守りのツールとしてのみで、イノベーションのツールとして活用していないということです。しかし、アジャイルもTPSもSCRUMも日本の1980年代の考え方とチームをベースとして、XPなどの最新IT技術と融合してアメリカで育ったという背景を考えると、本家本元の日本にこそ、真のポテンシャルがあると考えます。今一度、原点に戻って、日本的PMのあり方を議論し、80年代の日本のような復権を期待したいと思います。。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：8件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：8件）

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？（YES：8件）

質問3：プログラム構成（全体）について？（良かった：8件）

質問4：今回の話題提供について？（良かった：8件）

（コメント）

・アジャイル型開発のみならず柔軟性のある組織の大切さを強調されると良い。

質問5：Networking（参加者交流）について？（良かった：1件、その他：2件）

質問6：事務局対応について？（良かった：8件）

質問7：「Networking（会員交流会）」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？
（YES：3件/NO：2件/Other：3件）

質問8：「（参加者満足度）最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

（コメント）

・若い人の参加が少ないのはどうしてでしょうか？ 昔話、思い出はそれはそれで良いのですが・・・。

・既にいい感じだと思います。

質問9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

・アジャイル開発を実践しているユーザー企業

質問10：その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください！

・参加者の業種が多岐にわたり高度な議論が展開された。素晴らしい交流会だ。

・今日はとても参考になりました。

第19回「PMAJ ネットワーキング」2016年8月18日（木） 18：00～21：00

「IT業界のプロジェクト管理、これまでとこれから」

by 三浦 暁史（株式会社システムインテグレータ）

概要：

プロジェクト成功率が 30%といわれる IT 業界。7 割ものプロジェクトが失敗に終わるのはなぜか。弊社事例、アンケートから見えてくるプロジェクト失敗の原因についてお話しします。また、IoT の加速により、単純なソフトウェア開発のプロジェクト管理から、より複雑なプロジェクト管理が求められる時代に突入しています。これまでのプロジェクト管理とこれから求められるプロジェクト管理について、その違いを分析し、プロジェクト成功の鍵を皆様と議論できれば幸いです。

プロフィール： 三浦 暁史（みうら あきふみ）

株式会社システムインテグレータ Object Browser 事業部 担当マネージャー。

1983 年兵庫県尼崎生まれ。大学卒業後大手商社の会計システムの開発に参画。

現在は株式会社システムインテグレータにてプロジェクト管理ツールの営業に従事。

2011 年より 20 代向けの教育機関にて、渋沢栄一のリーダーシップに関する 1 時間の講義を開催。2016 年現在に至るまで 50 回を数える。

昨日は「第 19 回 PMAJ Networking（会員交流会）-8/18」に参加頂きありがとうございます。11 名の方に参加頂きました。

「IT 業界のプロジェクト管理、これまでとこれから」というテーマで、話題を提供頂きました、三浦暁史さん（株式会社システムインテグレータ）に改めましてお礼申し上げます。「IOT とは見える化である」との説明に、参加者からも多くの意見や事例の紹介があり、大変盛り上がった、有意義な会合になったと思います。

さまざまなデバイスがインターネットにつながる時代、これまでは測ることのできなかったデータを「見える化」することが可能になりつつあります。そのような新たなビッグデータをいかにプロジェクトマネジメントに活用するかという視点は、AI 化も含めて、今後のホットな分野だと思います。

一方、プロジェクトの成功率が、26.7%（2003 年）→75.0%（2014 年）に改善されたというデータもあるようです（日経コンピュータ調べ）。その要因が「プロジェクトに見える化」と共に「組織的なプロジェクト管理」の導入にあったということですが、それによって世の中が大きく改善されたという実感はありません。恐らくは「プロジェクトマネジメントの成功」と「プロジェクトの成功」が明確に定義されないまま、表面的な QCD 計画の実現を「プロジェクトの成功」と評価したことによる混乱と思われます。顧客価値の創造（ビジネスの成功）という真の意味での「プロジェクトの成功」という視点が弱いようです。これをそのままに、IOT で更にマイクロマネジメントへ突き進むことには、若干の違和感と危惧も覚えます。個々人への負荷で、精神的に病む人も増えている状況に光明はあるのでしょうか・・・？ 何れにしましても、既に始まっている新たに時代に向け、「PM もいかに進化していくか」が問われているようです。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：8 件）

質問 1 : 参加の目的・期待は達成されましたか? (YES : 8 件)

質問 2 : 今後も「P2M クラブ」に参加されますか? (YES : 8 件)

質問 3 : プログラム構成 (全体) について? (良かった : 8 件)

質問 4 : 今回の話題提供について? (良かった : 7 件、その他 : 1 件)

(コメント)

・” IOT とは見えないものを見える化する” は分かりやすかった

質問 5 : Networking (参加者交流) について?

(良かった : 7 件、改善の余地あり : 1 件)

質問 6 : 事務局対応について? (良かった : 7 件、その他 : 1 件)

質問 7 : 「Networking (会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか?

(YES : 1 件/NO : 2 件/Other : 4 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい!

(コメント) ・少し範囲を決めて頂いた方が良いかなと・・・

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい!

・映像教育コンテンツ「プロジェクトマネジメントプロフェッショナル」のプレビュー
(水野さん自薦)

→第 21 回 「PMAJ ネットワーキング」2016 年 12 月 15 日 (木) 18 : 00~21 : 00
で話題提供頂く予定です。(事務局)

質問 10 : その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください!

- ・紹介頂いた製品を理解したいと思います。
- ・IOT とは見える化であるとの説明に、参加者から多くの意見や事例の紹介があり良かった。
- ・参加者のディスカッションはいつも大変ためになります。今後も参加させて下さい。
- ・何回か参加させて頂いてから、ご協力を考えさせて頂きます。

第 18 回「PMAJ ネットワーキング」2016 年 6 月 16 日 (木) 18 : 00~21 : 00

「プロジェクトマネジャの育て方」

by 吉田 則子 (プロジェクト・カウンセリング・オフィス cocokara)

概要 :

「修羅場をくぐって初めて一人前のプロジェクトマネジャになれる」

「いいプロジェクトマネジャになるにはセンスと経験が必要」

・・・そんな声を聞いたことはありませんか?

P2M、PMBOK®といった知識体系を学ぶことはもちろん必須です。様々な研修を取り入れている企業も多いと思います。しかし研修等で得られた知識を実践で活かせるかどうかは、

個人任せとなっているのが実情ではないでしょうか。

- ・ 知識を実践に活かせる人と活かさない人の差は何でしょうか？
- ・ センスや経験だけではなく、効果的・効率的にプロジェクトマネージャを育てるためのアプローチは何かあるでしょうか？

話題提供として製薬会社での研修事例を提示した上で、豊富なご経験を持つ会員の皆さまの知見をお伺いし、活発な意見交換が出来れば幸いに思います。皆さまのご参加をお待ちしております。

プロフィール： 吉田 則子

プロジェクト・コンサルティング・オフィス **cocokara** 代表。

某製薬会社にて、医薬開発部門のプロジェクトマネジメントオフィス (PMO) として約 12 年の経験を持つ。主に臨床試験のプロジェクトマネジメントを行い、現場のプロジェクトマネージャー・メンバー支援からトップマネジメントへのレポートまで幅広く担当。PMO 業務を行う中で、正確な情報を収集し適切なマネジメントを行うためには現場との信頼関係が不可欠と感じ、産業カウンセラー資格を取得。プロジェクトマネジメント及びコンサルティングスキルを生かし、社内教育 (新人プロジェクトマネジメント教育、チームビルディング研修等) を数多く行う。

2015 年 8 月より「プロジェクト・コンサルティング・オフィス **cocokara**」を設立し、主に製薬企業での PM の発展・普及のため活動中。製薬企業の PM 勉強会である「Project Planning & Management Forum」の代表を務める。

先日は「第 18 回 PMAJ Networking (会員交流会) -6/16」に参加頂きありがとうございます。5 名欠席され、8 名の方に参加頂きました。少数精鋭でしたが、大変内容の濃い、有意義な会合だったと思います。「プロジェクトマネージャの育て方」という魅力的なテーマで、話題を提供頂きました、吉田則子さん (プロジェクト・コンサルティング・オフィス **cocokara** 代表) に改めましてお礼申し上げます。なかなか窺い知ることのできない「製薬業界の PM」について、PMO の立場から、分かり易くご紹介頂きました。業界によって、PM のあり方も、ミッションも違うということを改めて認識できました。特に、化合物レベルから承認までの成功確率約 2.5 万分の 1、「失敗？」するのではなく消滅する、というお話は、他の業界では見られない特徴だと思います。そのような中で、「PM の導入及び PM 人材の育成」「知識と実践」のギャップという面では、他の業界とも同様の苦労をされている様子が良く分かりました。このテーマは一朝一夕には解決できないものですが、業種をまたいで学び合うことで解決の糸口があるかも知れません。また吉田さんは、P 製薬企業の PM 勉強会である「Project Planning & Management Forum」(49 社 116 名) を 20 年に渡り主催され、その代表を務められているということにも感銘を受けました。今後も何らかの形で、PMAJ とのコラボレーションにつながればと期待しています。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：5件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：5件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：5件)

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：5件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：5件)

(コメント)

- ・私の知らない製薬企業のPMの話が聞けた
- ・めずらしい分野の話題で興味深かったです
- ・テーマが良かった

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：5件)

質問6：事務局対応について？(良かった：5件)

質問7：「Networking(会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？(YES：0件/NO：3件/Other：2件)

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(なし)

質問9：次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい！

(なし)

質問10：その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください！

- ・このような会は、時間の許す限り参加したいと思います。

第 17 回「PMAJ ネットワーキング」2016 年 4 月 7 日（木） 18：00～21：00

「PM（ぴーえむ）道中（どうちゅう）膝栗毛（ひざくりげ）－Ⅱ」

by 坂井 剛太郎（株式会社竹中土木 執行役員 国際支店長）

概要：

「膝栗毛」とは、馬（栗毛）に乗るのではなく、自らの足（膝）で漫遊して知見を広めることと聞く。今回は、プロジェクトに関わってきた履歴（PM 道）を省みて、P2M そのものに関する話題を提供したい。資料は昨年 9 月に関西例会で使用したものをバージョンアップしたものであるが、建設会社における長期にわたるノウハウの積み重ねで形成されてきた仕組みの中で先輩社員の指導で習得してきたものが、後に P2M を知ったことでどのように見えるようになったのかについて解説する。また P2M 手法習得後に実践・展開してきた導入事例について、プログラムマネジメント部分を中心に説明していくとともに、P2M の新たな可能性について提起していく。

プロフィール： 坂井 剛太郎

1982 年竹中工務店入社。タイ、アメリカを含む国内外での建築プロジェクト、業務改革プロジェクト、香港現地建設プロジェクトの技術指導等を担当。香港現地法人代表、アメリカ現地法人代表、生産系傍系会社代表を経て現職。一級建築士、一級建築施工管理技士、技術士（経営工学、総合技術監理、建設）、PMR、GRMI Diploma。

先日は「第 17 回 PMAJ Networking（会員交流会）-4/7」に参加頂きありがとうございます。1 名欠席され、10 名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「PM（ぴーえむ）道中（どうちゅう）膝栗毛（ひざくりげ）－Ⅱ」という興味深いテーマで、話題を提供頂きました、坂井 剛太郎 さん（株式会社竹中土木 執行役員 国際支店長）に改めましてお礼申し上げます。

グローバルベースでの現場プロジェクトマネジメント及び経営者としてのプログラムマネジメントの双方での、豊富な経験と実績に基づく、具体的で説得力のあるお話を伺うことができました。それは正に、P2M の実践事例といえるものでした。「PM を知らないプロマネ」状態から、一步一步ステップを重ねながら、時間を掛けて「PM/P2M 手法を導入」し、組織の価値創造につなげていった様子が良く分かりました。参加された方も大いに満足されたことと思います。坂井さんにはまた別の機会にも、大いに活躍頂きたいと期待しています。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：5 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？（YES：5 件）

質問 2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか？（YES：5 件）

質問 3：プログラム構成（全体）について？（良かった：5 件）

質問 4：今回の話題提供について？（良かった：5 件）

（コメント）

- ・経験に基づいた話で、とても参考になった
- ・実践的で、さまざまな知見をお持ちの方だったので、とても参考になりました
- ・多くの工事 PM から経営管理に至るプロセス発展で素晴らしいと思った

質問 5 : Networking (参加者交流) について? (良かった : 5 件)

質問 6 : 事務局対応について? (良かった : 5 件)

質問 7 : 「Networking (会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか?

(YES : 0 件/NO : 1 件/Other : 3 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい! (自由記述)

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい!

(なし)

質問 10 : その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください!

- ・内容もちろんですが、業務時間外で参加できる点は、大変嬉しいです。
- ・会費は事前振込かと思っていました。

HP に当日支払いと記載頂くと良いと思います。

→今後、そのように致します。(事務局)

第16回「PMAJ ネットワーキング」2016年02月18日（木） 18:00～21:00

「国際プロジェクトのリスクマネジメント」

～世界の一流コントラクターがやっていること～

by 大野 紳吾 (Systech International アソシエイトディレクター)

概要：

日本国外でのプロジェクト遂行や海外のステークホルダーが関わる『国際プロジェクト』が今後益々増える事が見込まれる中、「いかに自分たちの取るリスクを抑えて利益を上げるか」について、関心を持っている方は少なくないと思います。建設プロジェクトを事例に、リスクマネジメントの実務について重要ポイントをご紹介します。

- － 国際プロジェクトにはどんなリスクがあるか？
- － リスク管理手法とその限界
- － 想定外のリスクが顕在化した時、どうする？

下記のような方に聞いて頂きたいと考えています。

1. 国際プロジェクトで発注者やベンダーと揉めている
2. 国際プロジェクトで将来揉めるのを防ぎたい
3. 国際プロジェクトを検討しているが、リスクが高そうで悩んでいる
4. リスクマネジメントに興味がある

プロフィール： 大野 紳吾

Systech International アソシエイトディレクター

京都大学工学部卒業、IE Business School (Spain) MBA 修了。

大学卒業後、清水建設で国内プロジェクトの現場監督として働く。

その後、米系エンジ会社の Bechtel に転じ、海外プロジェクトのプロジェクトマネージャを経験。外資系保険ブローカーにて、インフラプロジェクトの発注者（銀行・商社・事業会社など）に対するリスクアドバイザー業務を行った後、現在は、国際建設プロジェクトの請負者に対して、リスクコンサルティング（契約、クレーム、紛争解決などの商務サポート）を行っている。一級建築士、一級建築施工管理技士、英国仲裁人協会会員。

先日は「第16回 PMAJ Networking（会員交流会）-2/18」に参加頂きありがとうございます。1名欠席され、18名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「国際プロジェクトのリスクマネジメント ～世界の一流コントラクターがやっていること～」という興味深いテーマで、話題を提供頂きました、大野紳吾様 (Systech International) に改めましてお礼申し上げます。

多様な分野から参加頂きましたので、それぞれの視点から活発な議論が展開されました。多少、発散し過ぎのきらいもありましたが、CHRISTAKIS MINA さんを交えた英語ベースでの議論は、テーマにも相応しく新鮮でした。しかし参加者の理解にバラツキがあり、また途中からの自説割り込み等で、講師には進行しづらい点があったかと思います。今後はファ

シリテーションも含め、ある程度のマナー作りが必要かも知れません。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：9件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：7件/NO：1件/Other：1件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：8件/Other：1件)

質問3：プログラム構成(全体)について？

(良かった：5件/改善の余地あり：3件/その他：1件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：5件/改善の余地あり：3件/その他：1件)

(コメント)

・意見が少し乱立したような気がします

・資料は欲しかったと思います(社外秘部分は無しでも良いので)

・私自身は当該テーマに関する深堀をしているため、物足りない面があった

そう言った意味では参加者の理解のバラツキの影響が大きかったように思う

・もう少し、会員のレベルに合った話題を提供した方がいいのでは？

・話題提供中に、受講者側からの自説発言が多すぎた

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：8件)

質問6：事務局対応について？(良かった：8件)

質問7：「Networking(会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：0件/NO：6件/Other：2件)

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！(自由記述)

・テーマ、資料等については、事前に審査までいかなくとも、ある程度のスクリーニングの必要性を感じる

・もう少し、マナーを弁えた形での進行が出来ればと良いかと・・・

・発言ルールがあってもよいかと思いました

・PMAJの強みをもっと深堀した方がいいのでは？

質問9：次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい！

(なし)

質問10：その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください！

・若輩の身ながら参加し、皆様の活発なご様子に感銘を受けました

・大変充実した時間を過ごさせて頂きました

・ありがとうございました。

第15回「PMAJ ネットワーキング」2015年12月17日（木） 18:00～21:00

「PMにおけるメンタルモデル（精神的側面）を考える」

～ プロジェクトマネジメントに愛は必要か～

by 井上 高正（株式会社ISCオフィス）

概要：

プロジェクトマネジメントの実践においては、たとえ知識や経験が如何に豊富であっても、これから始めるプロジェクトの結果に自信を持つことは叶わないと考えます。その前提において、数々の理論、技術、技能を学び、標準、ガイド、手引きに習熟することにより、少しでも自信を強くする努力を重ねているのだと思います。

PMAJ Networking（会員交流会）においては、多くの先達から卓越した見解、濃厚な経験談を聞かせていただき、大いに勉強させていただいておりますが、ちょっと観点を変え、PMにおけるメンタルモデル（精神的側面）を考えてみたいと思います。

ホーソン実験にも指摘されるように、人間の生産活動においては、その精神的側面は決して看過できず、PMの場面でどのように影響／効果を反映していけるかを議論の題材として提起してみたいと思います。PMにおけるメンタルな疾患事例が増加している中、生産性のみならず人間性の側面からも、PMのあり方について皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を頂ければ幸いです。

プロフィール： 井上 高正（株式会社ISCオフィス）

東京理科大学工学部機械工学科卒業後、S/Wハウス（20名→40名：約4年）、ユニバック総合研究所（約4年）、日本ユニシス（旧日本ユニバック：約25年）に勤務の後独立、情報システムのコンサルティング事務所を設立（ISCオフィス）いたしました。

プログラマー、SE、PM（7～12案件）の業務を経験。

職業能力開発総合大学校非常勤講師（1992年～2010年）

保健医療福祉情報システム工業会 物流システム専門委員会委員長等（1996年～2001年）

昨日は「第15回 PMAJ Networking（会員交流会）-12/17」に参加頂きありがとうございます。大変ユニークで有意義な会合だったと思います。「PMにおけるメンタルモデル（精神的側面）を考える」～プロジェクトマネジメントに愛は必要か～という興味深いテーマで、話題を提供頂きました、井上さんに改めましてお礼申し上げます。

従来のPM論にありがちな「べき論」とは異なって、PMに於ける人間的な側面、いわゆる本音の議論ができ、大いに盛り上がったと思います。皆さん方の総意としては、「今後もこのようなテーマで更に議論を深め、メンタルな面で行き詰っている人を支援できるのではないか、支援すべきではないか・・・」というものではなかったかと思います。井上さんには、そのような観点から、何らかの総括（ご提案?）を期待しています。

（参加者アンケート無し）

第 14 回「PMAJ ネットワーキング」2015 年 10 月 15 日（木） 18：00～21:00

「グローバル PM 標準の潮流と P2M の向かうべき方向性」

by 米澤 徹也（東洋エンジニアリング(株)）

笠原 直樹（日本電信電話(株)）

概要：

プロジェクトマネジメントの重要性とその発展は留まるところを知りません。当協会から 2014 年 4 月に P2M の改訂 3 版が出版されたのはご存知のことと思います。国際的にも 2012 年 9 月に ISO21500 「プロジェクトマネジメントの手引」が制定公開されたのを皮切りに、2015 年 7 月には ISO21504 「ポートフォリオマネジメントの手引」（邦訳は未定）が制定公開され、プログラムマネジメント、PM ガバナンスについても順次公開されていくことが予定されています。PMI® では 2016 年に PMBOK® ガイド 第 6 版の公開が予想されます。ヨーロッパを中心に世界 58 ヶ国の連盟組織からなる IPMA® ではその標準の中核である ICB を 2015 年 9 月に Individual Competence Baseline 4 として装いを新たにすることがアナウンスされています。

これら世界の PM 標準ならびに周辺プロダクトに関する簡単な特徴をご紹介しますと同時に、世界の PM 標準の潮流を読み解き、P2M の向かうべきところについて、参加者の皆さまと情報交換やご意見を伺えればと思っております。

プロフィール：米澤 徹也（東洋エンジニアリング（株））

東洋エンジニアリング（株）に入社後、プラント建設の設計・プロジェクトマネジメント業務を担当。現在、同社プロジェクト管理部に所属。

PMAJ 理事、PM 研究・研修部会長

PMI® 認定 PMP®

プロフィール：笠原 直樹（日本電信電話（株））

日本電信電話（株）入社後、NTT 研究所にて、主に NTT の実サービス向け新技術導入に関する研究開発に取り組む。その後、NTT グループの事業会社、開発会社でのプロジェクトマネージャ経験を経て、現在、NTT 研究所における PMO 活動に従事。

PMAJ 理事、PM 研究・研修部会 副部会長

PMI® 認定 PMP® 、情報処理技術者試験 プロジェクトマネージャ

PM 研究・研修部会講師

昨日は「第 14 回 PMAJ Networking（会員交流会）-10/15」に参加頂きありがとうございます。2 名欠席され、15 名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「グローバル PM 標準の潮流と P2M の向かうべき方向性」という興味深いテーマで、話題を提供頂きました、米澤さんと笠原さんに改めましてお礼申し上げます。多様な分野から参加頂きましたので、それぞれの視点から活発な議論が展開されました。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：11件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：11件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：9件/Other：2件)

- ・ Depends on Theme.

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：11件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：10件/改善の余地あり：1件)

(コメント)

- ・ かなりの労作と感じました。
- ・ 広い視野で調査した内容を明晰に整理して下さりありがたかったです。
- ・ 非常に大きなスコープを限られた時間でまとめて頂きありがとうございました。
- ・ かなり個人の意見も出されることがあり、全体として良かったなと思います。
- ・ 話題提供として、もう少し大ぐりにまとめて欲しい

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：11件)

質問6：事務局対応について？(良かった：11件)

質問7：「Networking(会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：1件、NO：4件、Other：6件)

→(YES：1件/Other：6件)の方は、お名前をご連絡下さい。(事務局)

- ・ 「そのうちに！」よろしくお願ひします。

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！(自由記述)

- ・ 若手動員、多様な主体を呼び込む、情報発信
- ・ リレー式に次の講師を指名して、次のフォロワーを初めから決めてしまっても良いと思います。
- ・ Networkingの現状に満足しています。
- ・ At this moment, I have no ideas.

質問9：次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい！

・ 今回それなりに盛り上がった発言者の方々から、「次は建設、プラント系の方」が良いと思います。

- ・ 坂井さん(竹中土木)
- ・ 大野さん(Systech International)

質問10：その他、ご提案やご感想など、ご自由にご記入ください！

- ・ 今夕は大変たのしかったです。
- ・ 企画、運営お疲れ様です。
- ・ お疲れ様でした。
- ・ ありがとうございました。
- ・ Thank you.

第13回「PMAJ ネットワーキング」2015年08月06日（木） 18:00～21:00

「アジャイル / デザイン思考イノベーション」

～アジャイルとデザイン思考の統合で真の価値創造～

by 竹腰 重徳（株式会社アイネット 代表取締役）

中谷 英雄（株式会社ピーエム・アライメント 取締役）

概要：

グローバル化と新興国の台頭、少子高齢化の進展、消費の成熟化など、企業を取り巻く環境は大きく変わっています。激しい環境変化の中で、企業が熾烈な競争に勝ち残るために、イノベーションが求められています。イノベーションとは、新しい顧客価値を生み出すための革新的な事業活動で、より良いプロダクト、より多くの便利さ、より大きな満足の提供です。顧客が求めている欲求（潜在的なものも含め）に対して、新たな方法で組み合わせて革新的なプロダクトを提供することにより、顧客に新しい価値を気づかせ、市場や社会に変化をもたらします。

イノベーションを実現するツールとして注目されているのが、「アジャイル」と「デザイン思考」です。アジャイルでは、顧客の要求を反復漸進的に開発していく方法は示されていますが、どのようにして顧客のニーズを引き出すかの方法は示されていません。この点をデザイン思考が補完します。デザイン思考チームが、顧客の現場に行き観察し、問題を探索して真の課題を見つけて解決案を創出し、それを高速にプロトタイプして、顧客のフィードバックを得ながら、顧客の真の要求を実現するプロダクトビジョンやプロダクトの機能を明確にします。アジャイル開発チームがそれを引き継いで反復漸進的に顧客価値を開発します。アジャイルとデザイン思考の統合プロセスにより、真のニーズに合った革新的な顧客価値を迅速に提供できます。

アジャイルとデザイン思考を統合して使う方法は、アジャイルとデザイン思考のマインドセット（人間中心、反復プロセス、徹底的協働、顧客との協調、失敗から学ぶなど）がほぼ同じであることもあり、スムーズに統合でき、革新的なプロダクトを創出するのに有効です。

今回の話題提供は、イノベーションを推進するツールであるアジャイル/デザイン思考統合イノベーションについての特徴・考え方を提示し、ウォータフォールが定着した文化の中で、イノベーションを実現するこの方法の普及のためにどうしたらよいか実践経験豊かな参加者の皆さんと議論できますことを期待しています。

プロフィール：竹腰 重徳（株式会社アイネット代表取締役）

大阪大工卒、マツダ、日本 IBM を経てアイネット。PM、アジャイル、イノベーション、経営品質等のコンサルやコース開発。北大、産業技術大学の非常勤講師や板橋経営品質審査員歴。PMP®、PMI-ACP®。

プロフィール：中谷 英雄（株式会社ピーエム・アライメント取締役）

学習院大理卒、日本ユニシス、三井住友信託銀行を経てピーエム・アライメント。PM、イノベーション等のコンサルやコース開発。JUAS、大手企業向け研修コース研修講師歴。

PMP®、CSM®、CSPO®。

昨日は「第13回 PMAJ Networking (会員交流会) -8/6」に参加頂きありがとうございます。1名欠席され、22名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「アジャイル / デザイン思考イノベーション」～アジャイルとデザイン思考の統合で真の価値創造～という興味深いテーマで、話題を提供頂きました、竹腰さんと中谷さんに改めましてお礼申し上げます。多様な分野から参加頂きましたので、それぞれの視点から活発な議論が展開されました。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。(総数：11件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：8件/NO:1件/Other：2件)

→(NO:1件/Other：2件)の方は、期待外れの内容を教えて頂けないでしょうか？(事務局)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：10件/Other：1件)

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：8件/改善の余地あり：3件)

→(改善の余地あり：3件)の方は、

その詳細を教えて頂けないでしょうか？(事務局)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：10件/改善の余地あり：1件)

(コメント)

- ・デザイン思考とアジャイルを組み合わせたフレームワークの提案は興味深かった。
- ・異業種の話であったが、応用・展開・検証できる内容であった。
- ・色々のコメントがあり、発展の可能性あり。
- ・議論が活発に出て素晴らしかった。
- ・何か足りなかった。
- ・コーディネートの強化が必須である。

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：10件/改善の余地あり：1件)

質問6：事務局対応について？(良かった：11件)

質問7：「Networking(会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES：2件、NO：2件、Other：7件)

→(YES：2件/Other：7件)の方は、お名前をご連絡下さい。(事務局)

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！(自由記述)

- ・自己否定の考え方。コーチングの要素を取り入れて欲しい。

→このテーマで、話題提供頂けないでしょうか？(事務局)

- ・次世代ITのトレンド、AI(人工知能)を語る会

→このテーマで、話題提供頂けないでしょうか？(事務局)

・今のところ現状で良いと思います。活発な議論も貴重であり、良い雰囲気の中で本音が出るのが楽しいと思います。

・考えてみます。

・金曜日の午後に開催頂けると有難い。(翌日が休みなので)

→会議室の予約の制約で、残念ながら、木曜日になっています。ご理解くださるようお願いいたします。(事務局)

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

・日本ユニシスの石山さん

→次々回以降で、お願いしたいと思います。(事務局)

質問 10：PMAJ/P2M の認知普及拡大策のアイデアがありましたらご提案下さい！

・小規模でも良いので、サクセスストーリー（事例）を作ってください。是非まねをしたいところが出てくると思います。

・多様な業種、世代が交流する機会を増やしましょう！

・初参加ですので勉強します。

第12回「PMAJ ネットワーキング」2015年06月18日（木） 18:00～21:00

「無理をしないで成功するプロジェクトマネジメント」

～モダンプロジェクト管理 Vs アジャイルプロジェクト管理～

by 竹久 友二（NTT データ先端技術株式会社）

概要：

「伝統的なモダンプロジェクト管理」は、ビジネス要請から要件を固め、それに基づき、設計し、開発/試験そして提供となるいわゆるウォーターフォール開発を前提としたプロジェクト管理である。成功のためには上流（システム要件定義・設計）あるいは更に前の超上流（ビジネス企画、戦略立案）が重要だと言われており、これを前提に開発プロセスの中で品質を作り込んでいく方法である。しかし、特にITシステム開発では、かなり以前（たぶん20年位前）から、プロジェクト開始当初の要件定義の曖昧さ、設計品質不足等の問題から開発プロジェクトのマネジメントの難易度が高くなり、ベテランのPMでなければ成功できない状況が（今でも）続いている。

一方2001年のアジャイルソフトウェア開発宣言に端を発したアジャイル開発のプロジェクトマネジメントスタイルは、米国のソフトウェア開発コミュニティに広がっている。いまやDODでさえもウォーターフォールモデルによる失敗の経験からイテレーションを繰り返すアジャイル開発を採りいれている。アジャイルプロジェクトマネジメントの基本は、モダンプロジェクト管理の綿密な計画に基づき、PMが全てを指揮する命令タイプではなく、ビジョンの共有に基づき下から支えるサーバント型のリーダーシップであり最低限のルール（例えば、毎朝会議を10時から15分行う）と開発チームの自律（自己組織化）に基づいている。基本はQCD（特にスコープ）3制約を守る事よりも決められた期間（通常2W～4W）で動くソフトを早だし、その結果を評価し次に何をやるかを決め次の期間の開発を行う。これを一定の時期まで繰り返しプロジェクトを進めるタイプで、むしろスコープは調整される（変化する）という点が異なる。それが結果的にビジネス的に成功する“価値”を作り出す方法と言われている。

今回の話題提供は、両者のプロジェクトマネジメントの特徴・考え方を提示し、今後のプロジェクト管理の在り方を、実践経験豊かな参加者の皆さんと議論できますことを期待しています。

（キーワード）

伝統的プロジェクト管理、スーパーPM、アジャイルプロジェクト管理（APM）、自己組織化（自律したプロジェクトメンバ）、プロジェクトマネジメント2.0、変化への対応（しなやかさ、レジリエンス）

プロフィール： 竹久 友二

- ・ 東工大卒、1974年電電公社（横須賀通研データ通信研究部等）
- ・ OS、通信制御、PKG、仮想計算機システムなどのソフト開発に従事した後、テレコミュニケーションサービスのAPプラットフォーム開発や大規模システム開発のPMを経験す

る。これらのプロジェクトを通じソフトやシステム開発の実践方法、方式技術、プロジェクト管理のノウハウを体得し、1999年 NTT データに移籍し IT プロジェクトリスク管理とプロジェクト審査の仕組み構築や問題プロジェクト撲滅の活動、PMO の立ち上げ等を行う。2004年 NTT データ PMO 代表、2009年先端技術、現在に至る。

現在は IT システム開発プロジェクト管理の指導やコンサルタント、PM の人材育成、学会活動等による PM スキル体系等の活動を行っている

- ・ PM 学会会員、PMAJ 入会予定

昨日は「第12回 PMAJ Networking (会員交流会) -6/18」に参加頂きありがとうございます。2名欠席され、23名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「無理をしないで成功するプロジェクトマネジメント」～モダンプロジェクト管理 Vs アジャイルプロジェクト管理～という興味深いテーマにつきまして、話題を提供頂きました竹久さん (NTT データ先端技術株式会社) に改めましてお礼申し上げます。多様な分野から参加頂きましたので、それぞれの視点から活発な議論が展開されました。～モダンプロジェクト管理 Vs アジャイルプロジェクト管理～というテーマは、商習慣 (日本/米国) や業種 (建築/プラント/エンジニアリング/IT/製造)、ビジネスモデル (発注側/受注側) などの違いにより、さまざまな受け止め方が あるということが改めてクローズアップされたのではないのでしょうか? 時間不足で中断せざるを得ませんでした。今後も議論を継続すべきテーマだと 感じました。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りで「参加者満足度：100%」でした。

(総数：16件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか? (YES：16件)

質問2：今後も「P2M クラブ」に参加されますか? (YES：16件)

質問3：プログラム構成 (全体) について? (良かった：16件)

質問4：今回の話題提供について? (良かった：16件)

(コメント)

- ・参考になりました。
- ・参加者が多方面で良かった!
- ・面白かったです。学びました。
- ・私には少し難しかったが良かったです。
- ・討議、コミュニケーションの展開が面白く、楽しい時間を過ごすことができました。
- ・大変勉強になりました。私の勉強不足を実感しましたので勉強して、また参加 致します。

質問5：Networking (参加者交流) について? (良かった：16件)

質問6：事務局対応について? (良かった：16件)

質問7：「Networking (会員交流会)」の企画・運営に事務局として参加頂けますか?

(YES : 3 件、NO : 9 件、Other : 4 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！(自由記述)

- ・初回なので、今後にでも・・・
- ・多方面の PM を集めて欲しい！
- ・もう少し若い方も募集したら如何でしょう。
- ・まず良いテーマを選んで頂くことが大切だと思います。
- ・本日のタイムコントロールは良かったと思います。
- ・Q&A の時のコーディネータが居た方が良い
- ・スコープが定義できない仕事があるなんて、信じられません。
- ・今日もそうでしたが、話題提供終了までは缶ビール 1 本程度が良いかと思います。
- ・今日提供されたような話題では、特に情報処理産業の人間としては、発言期待、議論期待がとても多くなると思います。

→ (提案) 発言 (質問) 権の整理券を (1 枚づつ?) 配る案はいかがでしょう？

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

- ・初回なので、今後にでも・・・
- ・PMR クラブとかぶりますので推薦は控えます。

質問 10 : PMAJ/P2M の認知普及拡大策のアイデアがありましたらご提案下さい！

- ・P2M + Portfolio
- ・資格所有者を増やす
- ・参加者、関係企業への啓蒙
- ・勉強してアイデアを出したいと思います。
- ・日頃から考えておくようにします。
- ・本日はありがとうございました。

第 11 回「PMAJ ネットワーキング」2015 年 04 月 16 日（木） 18 : 00～21:00

「P2M のミッションプロファイリングと 3S モデルの活用事例」

～中食製造業の業務改革での適用事例～

by 藤澤 正則（デリア食品株式会社）

概要：

今回はこれまで弊社で進めてきた、「P2M のミッションプロファイリングと 3S モデルの活用事例」について、皆様との議論を深めたいと考えております。

デリア食品(株)は、キューピーグループの食品事業 5 事業の中でサラダ・惣菜事業に属し、毎日買っていただける惣菜などの商品を 365 日提供するビジネスを全国で展開しています。このマーケットは国内市場において成長性が高く、様々な業態が参入することから、競争が激しく環境変化も早くなっています。

従来のもつくりは、「確実性、継続性、標準化」をベースに進められてきました。業務改革は、「しくみを使って価値を生むサービスモデル」と「しくみを作るシステムモデル」をつないで変化に対応してきました。しかし上記のような環境変化の中にあって、プロジェクトのような「不確実性、有期性、個別性」の要素や、プログラムのような「不確実性、多義性、拡張性」の考え方を取り入れ、変化を予測しながら変化を創り出すことの必要性が出てきています。そこで P2M の特徴である、「想いやしくみをプロファイリングするスキームモデル」と「しくみを作るシステムモデル」「しくみを使って価値を生むサービスモデル」をつないだ 3S モデルで進める業務改革を、「しくみづくりと人づくり」で進めてきています。その中から、「事業内統合 PJ」「事業統合工場計画 PJ」「事業戦略構想 PJ」について、その概要をご紹介します。この内容は「P2M クラブ・2/10」にてお話した内容を、事務局からのご要望により、再びお話させて頂くものです。多くの方のご参加をお待ちしています。

プロフィール： 藤澤 正則

1985 年東京水産大学（現 東京海洋大学）食品工学科卒、同年キューピー(株)入社。生産部門、エンジニアリング部門に経験後、CVS 関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組み構築 PJ などに関わる。出向終了後、2005 年より、サラダ・惣菜事業の事業などのしくみづくりや人づくりに関わっている。

現在、デリア食品(株)生産本部に在籍。2006 年より東京 P2M 研究会に参画。PMS。PMR。PMAJ 会員。国際 P2M 学会会員。日本冷凍空調学会会員。日本食品工学会会員。

昨日は「第 11 回 PMAJ Networking (会員交流会) -4/16」に参加頂きありがとうございます。1 名欠席され、9 名の方に参加頂きましたが、大変内容の濃い有意義な会合だったと思います。「P2M のミッションプロファイリングと 3S モデルの活用事例」という興味深いテーマにつきまして、話題を提供頂きました藤澤さんに、改めましてお礼申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りで「参加者満足度：100%」でした。

(総数：4件)

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？(YES：4件)

質問2：今後も「P2Mクラブ」に参加されますか？(YES：4件)

質問3：プログラム構成(全体)について？(良かった：4件)

質問4：今回の話題提供について？(良かった：4件)

(コメント)

- ・ミッションプロファイリングの好事例と思われた
- ・ゼロベースでのプロファイリングの重要性
- ・個人個人が自ら動ける風土作りの重要性
- ・ミッションプロファイリングの事例集を作ってはどうか
- ・地道なP2M実践の中からの、魅力的な言葉に感動した
- ・入口(“場”作り)の重要性が良く分かった
- ・認められて、求められるP2M、へと成長して欲しい

質問5：Networking(参加者交流)について？(良かった：4件)

質問6：事務局対応について？(良かった：4件)

質問7：「P2Mクラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(NO：3件、Other：1件)

質問8：「(参加者満足度)最高のP2Mクラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えてください！(自由記述)

- ・過去に提言しようと思っていましたが、本日既に、考えていたことが実践されていました。(→話題提供前は、缶ビール1本/人程度にして、講演後は、大いに飲みながら議論したら良いと思います)

質問9：次回の「話題提供者」として推薦(自薦・他薦)したい方をご提案下さい！

- ・ご意見無し

質問10：その他、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

- ・ご意見無し

第10回「PMAJ ネットワーキング」2015年02月19日（木） 18:00~21:00

「多国籍組織でのPFIインフラ事業の顛末」

・・・by 向後 忠明（PMAJ 理事）

概要：

今回は「多国籍チームでの事業の難しさとそれをまとめていくプロジェクトマネジメント（PM）実践力の必要性」についてお話致します。

本事例は日本、オーストラリア、インドネシア企業から構成される、インドネシアにおけるSPC（特別目的会社）によるPFI事業です。その事業は開始当初から最後まで、下記のような様々な混乱・危機に見舞われ、波乱万丈のものでした。

- ① メーカー及び請負業者の入札での入札内容の不一致による混乱
- ② 建設進捗が思わしくないSPC内部の混乱
- ③ 建設進捗の立て直しの混乱
- ④ 建設進捗の最盛期の混乱
- ⑤ 金融危機に伴うサバイバル期と経営体制の変更の混乱、等

戦略計画本部長として参画し、この事業に深く関わってきた立場から、これらの混乱・危機に対して、PM実践力でいかに切り抜けてきたかの顛末を、具体的な事例に沿って分かり易くご紹介します。それを起点に皆様との議論になればと期待しています。アベノミクスで海外へのインフラ輸出事業に進出しようとしている方々には、先行事例として、参考になればと思います。奮ってご参加くださるようお待ちしております。

プロフィール： 向後 忠明

1968年 千葉大(工)卒後日揮（株）入社。

DE本部、国際事業本部にて各種海外PJに参加。

1988年 NTTIに移籍し各種PJでのPM、プロジェクト統括次長兼品質保証部長

1994年 NTT海外投資事業会社での取締役戦略計画本部長（インドネシアPFI）や執行役員（スリランカテレコム民営化）、

2002年 NTTコム/NTTリースPMアドバイザー

現在 数社企業の技術顧問、PMAJ理事、IPA PMコミュニティ委員、

著書：ワンランク上のPMを目指して他2冊

昨日は「第10回 PMAJ Networking（会員交流会）」に参加頂きましてありがとうございます。17名の方に参加頂き、大いに盛り上がりました。多少発散し過ぎた面もありましたが・・・？「多国籍組織でのPFIインフラ事業の顛末」という興味深いテーマで貴重な話題を提供頂きました向後様に改めましてお礼申し上げます。計画通りに進まない「想定外のPM」に対処する知恵を伺えたように思います。

お寄せ頂きましたアンケート結果は下記の通りでした。（総数：5件）

質問 1 : 参加の目的・期待は達成されましたか？ (YES : 3 件、NO : 1 件、Other : 1 件)

質問 2 : 今後も「P2M クラブ」に参加されますか？ (YES : 3 件、NO : 1 件、Other : 1 件)

質問 3 : プログラム構成 (全体) について？ (良かった : 5 件)

質問 4 : 今回の話題提供について？ (良かった : 4 件、その他 : 1 件)

(コメント)

- ・テーマが良かった

質問 5 : Networking (参加者交流) について？

(良かった : 3 件、改善の余地あり : 1 件、その他 : 1 件)

質問 6 : 事務局対応について？ (良かった : 4 件、その他 : 1 件)

質問 7 : 「P2M クラブ」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

(YES : 0 件、NO : 2 件、Other : 3 件)

質問 8 : 「(参加者満足度) 最高の P2M クラブ」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！ (自由記述)

- ・会員がいかにも多く参加するかが重要ですが、具体的には別途・・・
- ・たまには、アルコール無しでも良いかも・・・

質問 9 : 次回の「話題提供者」として推薦 (自薦・他薦) したい方をご提案下さい！

- ・無し

質問 10 : その他、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

- ・様々な交流イベントを HP で発信されるのがいいと思います (内容も含めて)
- ・アルコールがある場でのサロン形式は私には合いません。

正直不完全燃焼というか、せっかく時間を工夫して出席したのがっかりです

特別篇「PMAJ シニアネットワーキング」2015年01月09日（金） 15:00～17:00

「新春 PM 放談会」～参加者各位から議論の口火を提供頂き、それを起点に活発な「放談」を楽しみました。

概要：

2015年の幕開けを祝いまして、「PMAJ Networking（シニア会員交流会）」特別篇として、下記要綱で「PMAJ 新年会 ～新春 PM 放談会～」を開催致します。数々のプロジェクトを PM として活躍され、第一線を卒業し PM に関して経験豊富で一言お持ちの諸先輩の方々のご参加をお待ちしています。どのような内容でも結構です、この「PM 放談会」で吐き出してみませんか？性別、年齢、業界、経験は、すべて不問です。諸先輩の話を聞きたい・交流したいと思いの現役で活動されている方々、どなたでも大歓迎です。

当日は最初に「新年の挨拶」後、ビールで乾杯。その後、参加者各自から議論の口火を提供頂き、それを起点に自由に、奔放に、放談して頂きます。あわよくば、ここで出たポイントを PM のノウハウ集として体系化することも（ぼんやりと）視野に入れています。ふるってのご参加をお待ちします。

昨日は「PMAJ Senior Networking ～新春 PM 放談会～」に参加頂きありがとうございます。大御所の皆様相手に、進行に難しい面があり、発散した議論になったかと思いますが、「放談会」に免じてご容赦頂きたくお願いします。中でも、議論の一つ一つには、流石に百戦錬磨の経験豊富な皆様の含蓄あるご意見に大いに感銘を受けました。

このような枠にとらわれない、大所高所からの議論は今後も有意義且つ必要ではないかと期待しますが、皆様方の総意が「年一回程度で・・・」ということでしたので、暫く時間をおきまして改めて企画したいと思っています。皆様からの忌憚のないご意見ご提案をお待ちしています。取り急ぎお礼申し上げます。

第 09 回「PMAJ ネットワーキング」2014 年 12 月 04 日（木） 18:00～21:00

「PM 放談の夕べ」～俺にも言わせろ、私も言いたい（若手と女性は大歓迎！）～

・・・by 中嶋 秀隆（話題提供：プラネット株式会社）

齋藤 雅敏（ファシリテーター）

（概要）

「あなたの PM の”キモ”は何ですか？」

「あなたのプロジェクトの成功の秘訣は何ですか？」

「あなたが仲間や後輩、若手、はたまた、子ども達に伝えたい PM のノウハウは何ですか？」・・・

経験豊富なあなたには、必ず一言あるでしょう。それを「PM 放談の夕べ」で吐き出してみませんか？ 性別、年齢、業界、経験は、すべて不問です。どなたも大歓迎。（ただし、これからの PM を支える若手と女性はとくに大歓迎です。）

当日は最初にビールで乾杯。その後、齋藤さんがファシリテートし、中嶋さんに皮切りとして話題を提供頂きます。あわよくば、ここで出たポイントを PM のノウハウ集として体系化することも（ぼんやりと）視野に入れていきます。ふるってのご参加をお待ちします。

（プロフィール） 中嶋 秀隆（話題提供者）

プラネット（株） 代表取締役社長

趣味は落語鑑賞、音楽鑑賞（モダン・ジャズ、クラシック）、読書（エッセイ）、ジョークの収集（日本語・英語）、水泳、自転車。わが国の PM 研修・コンサルの草分け、PMAJ 会員、PMI 会員、同日本支部理事、ミッション委員会委員、PMP、プロジェクトマネジメント学会員。慶応義塾大学非常勤講師、中京大学大学院客員教授。英語のジョークを楽しむ会会員。インテルにてマイクロプロセッサの工場立ち上げプロジェクトに参画、その後、独立。著書・訳書多数。

（プロフィール） 齋藤 雅敏（ファシリテーター）

プロジェクトカウンセラー

PMAJ 認定 PMS、産業カウンセラー、ナラティブセラピスト。「プロジェクト」を一つの物語と捉え、そこに出演する登場人物、エピソード、から「そのプロジェクトに潜む悪役（問題）」を顕わにし、立ち向かうための第一歩を提供する“プロジェクトカウンセリング”を展開中。

第 08 回「PMAJ ネットワーキング」2014 年 10 月 09 日（木） 18：00～21:00

「プロジェクトマネジメントに愛は必要か？」

・・・by 井上 高正（株式会社 ISC オフィス）

（概要）

プロジェクトマネージャは何を究極の目標とするのでしょうか。過去、情報処理システム開発のプロジェクトマネジメントを経験し、未だに解にたどり着いておりません。

そもそもプロジェクトマネージャの存在は必要なのでしょうか？

何を以ってプロジェクトの成功と評価するのでしょうか？

プロジェクトを成功させる決定的要素は何なのでしょうか？

多くのご経験をお持ちの先達や、今現在プロジェクトマネージャをされておられる方、これからプロジェクトマネージャを目指す方々に議論の火種を提供し、双方向でフランクな討議を楽しみたいと思います。

（プロフィール）井上 高正（株式会社 ISC オフィス）

東京理科大学工学部機械工学科卒業後、S/W ハウス（20 名～40 名：約 4 年）、ユニバック総合研究所（約 4 年）、日本ユニバック（その後、日本ユニシス：約 25 年）に勤務の後独立、2002 年情報システムのコンサルティング事務所を設立（ISC オフィス）しました。プログラマー、SE、PM（7～12 案件）の業務を経験。

職業能力開発総合大学校 情報システム工学科 非常勤講師（1992 年～2010 年）

保健医療福祉情報システム工業会 物流システム専門委員会 専門委員長等（1996 年～2001 年）

（参加者アンケート無し）

第 07 回「PMAJ ネットワーキング」2014 年 08 月 07 日（木） 18：00～21:00

「アベノミクス」の成功に向けて、P2M への期待！」

・・・by 渡辺貢成様（PMAJ 理事）

（概要）

グローバリゼーション下での経営戦略を誤った日本は 20 年の空白をへて、その再生に向けて、“アベノミクス”が提示された。アベノミクスを成功させる為には、下記の課題を克服しなければならない。

① グローバル環境下でビジネスを行う、国際常識の理解

（契約、グローバル標準、多文化理解）

② 分野ごとに異なる成功を獲得できる BM（ビジネスモデル）構築

③ 意思決定のスピード化（含むリスクマネジメント）ができる組織能力の高さ、ステークホルダー説得力、等々

幸い PMAJ には多くの P2M 資格者が存在し、課題解決のための実践力が期待されている。今回の「第 7 回 PMAJ Networking（会員交流会）」では、斯様な問題意識の下、ワールドカフェ方式で、

I. アベノミクスとは何で、どのような問題が存在しているかを議論する

II. PM(P2M)の役割を議論し、より高いレベルに到達するには何をすべきかまとめる

ことで、活発な交流を図りたいと思っています。多くのご参加をお待ちしています。

参加者には参考資料として、

「アベノミクス成功に向け：グローバリゼーション対応プログラムマネジメント」（渡辺貢成）を事前配布します。

（プロフィール） 渡辺 貢成

日揮：石油精製（ドミニカ、ブラジル）原子力事業本部副本部長、有人宇宙システム(株)（国際宇宙ステーション計画利用・運用・安全支援企業）専務、JPMPF 初代事務局長、P2M ガイドブック改定委員長、PMS 講師、東北大 MOT 講師、北陸先端科学技術大学 MOT 講師、PMAJ 理事

「第 7 回 PMAJ Networking（会員交流会）-8/7」に参加頂きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記のような貴重なご意見をお寄せいただきました。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：5 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？【YES：3】【NO：】【Other：】

（理由）

- ・興味深い話題が提供され、議論が大変盛り上がったと思います。
- ・講師に久しぶりにお会いでき、ご講演を聴講できた。

- ・いろいろな方のご意見を拝聴できた。交流を図れた。
- ・少人数だったので、異業種交流？という感じではありましたが、川勝さんとの出会いが自分にとってはとても有意義な会になりました。

質問2：今後も「PMAJ Networking（会員交流会）」に参加したいと思いませんか？

【YES：2】【NO：】【Other：1】

（理由）

- ・いろいろな業種の異なった考え方に触れる良い機会となる。
- ・どちらとも言い切れない。折を見て参加する。
- ・改めて今後もよろしくお願いします。

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。

【良かった：2】【改善の余地あり：2】【その他：】

（理由）

- ・流れはよかったと思いますが、全員での議論がもう少し長い方がよかったかと思います。
- ・時間配分に改善の余地ありと感じました。
- ・今回の進行方法には無理がありました。

質問4：今回の話題提供について？

【良かった：4】【改善の余地あり：】【その他：】

（理由）

- ・内容は大変良かったと思いますが、スライドが一部見られなかったのが残念でした。
- ・講師がいろいろ調査された内容が勉強になりました。
- ・内容は勉強になりました。

質問4-1：特に、今回初めてトライしました、ワールドカフェ方式（グループディスカッション）について？【良かった：2】【改善の余地あり：3】【その他：】

（理由）

- ・時間配分に改善の余地ありと感じました。
- ・話が拡散して雑談になる。グループ内でテーマが決まらない。
- ・ルールが強引過ぎたと思います。
- ・小学校のクラス・スタディーの様でした
- ・たいへん参考になる内容でした。
- ・ファシリテータ「マー♪」さんの進め方はたいへん素晴らしかったです。できましたら、私がお引き受けするセッションでも「マー♪」さんに進行役をお願いしたいと思いますが、可能でしょうか？

質問5：Networking（参加者交流）について？

【良かった：2】【改善の余地あり：1】【その他：】

（理由）

- ・講師に久しぶりにお会いでき、ご講演を聴講できた。

- ・いろいろな方のご意見を拝聴できた。
- ・若い人が少なかった
- ・もう少し他業種の方々に参加いただけるようにしていただきたく存じます。

質問 6：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【良かった：2】【改善の余地あり：1】【その他：】

（理由）

- ・設備の不調もあり、大変だったと思います。お疲れさまでした。
- ・お世話様です。おにぎり（1 個/人）を配ってはいかがでしょうか。お酒を飲むため不要とする人が多いですかね。
- ・あの価格では十分でした。

質問 7：「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

- ・興味深い議題と多様な人が集まることとかと思います。
- ・交流自体が目的のサロンになるには道が遠いと思います。
- ・参加を促すインセンティブを考える。
- ・一つ人は魅力あるテーマ。鶏と卵になります会場の人に出会えることを知る。
- ・会員の方々の貴重な時間をいただくには、それなりのメリットをつくらなければならないと思います。交流会でもいつものメンバーであれば、あの場でされる必然性はないのでしょうか。PMはあらゆる分野に通じるものです。あまり業界を絞ってしまうと、異業種交流会という意味はなくなってしまうかと存じます。

質問 8：「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【参加したい：】【参加は無理：2】【その他：1】

（理由）

- ・出張や急な会議等があり業務が不規則のため難しい。
- ・参加は無理です。
- ・検討させてください。

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（自由記述）

- ・参加されていた、プラネットの中嶋さんが良いと思います。

質問 10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

（自由記述）

- ・企画・実施、お疲れ様でした。
- ・いつもありがとうございます。今後とも有益な情報、よろしくお願いします！
- ・交流会には出られませんでした。最近感じていることは、P2M 的思考方法が受注者よりも発注者側に欠けている点です。特に、政府や公的機関の公募案件(プロジェクト) の屍累々の状況です。発注する方も受注する方も不都合なことは公表されませんので、マスコミ

的には余り表面化されません。しかし、発注者側と受注者側の両者は、何らかの改善策が必要と感じている状況です。この問題をP2M的アプローチで接近した場合、どのような手法で、どのような成果物が可能なかの検討をPMAJ（交流会？）で検討可能な状況でしょうか。検討結果の構想又はフレームを当局に持ち込んで、それを分野別に落とし込んで、PMAJが受注するPMAJのプロジェクト提案です。

（対応策）

・上記のようなご提案がありました。Networkingの場で議論していくかどうかも含め、次回以降の会合でご議論頂ければと期待しています。

第 06 回「PMAJ ネットワーキング」2014 年 06 月 05 日（木） 18：00～21:00

「PM の標準化動向（PM の ISO 化を中心として）」

・・・by 田島 彰二様（戦略 PM オフィス代表、元 NEC）

（概要）

PM の ISO 化がいろいろ動いてきた。その最新動向を ISO の考え方を中心にご紹介する。特に今年の秋には、日本で PM 標準化の ISO 総会（TC258）が行われることもあり、ISO 周りを中心に、その位置づけ等を紹介する。また、その他の重要な動向として、2012 年に PMI の標準類が一斉に更新されたのを受けて、組織（Organizational Project Management; OPM）やチェンジマネジメント（Configuration Management ではなく組織全体の方向を変革する意味）の実務標準類が充実しはじめたことも紹介する。時間が許せば、AXELOS（ITIL® および PRINCE2® の新オーナー社名）、PMI GC 2014 EMEA 等の話題にも触れたい。

（プロフィール） 田島 彰二

田町の会社（NEC）に入社後、新規事業開発分野に一貫して従事。当初は、技術系システムエンジニア SE、プログラママネージャ PM としてビデオテックス（CAPTAINS）を電電公社（当時）にシステム、サービス、プロトコルのアーキテクトとして参画。その後、プログラママネージャ PGM、ポートフォリオマネージャ PFM の立場で、VAN（付加価値通信網）、EC・EDI（Electric Data Interchange）の事業開発、システム開発デザインを担当。さらに、デジタル情報家電ビジネス、インターネットコンテンツアグリゲーションビジネス、SOHO ビジネス、ブロードバンド SL ビジネス等の事業開発責任者としても従事。2014 年 3 月末に独立。

産業技術大学院大学、金沢工業大学などで講義／講演、IPMA の PMAN（ネパールの第一回 PM 国際会議）で講演、PMIJ、PM 学会、itSMF 等でも講演、講義を担当。

ISO PC236,TC258 委員。PMP®, PMIJ では PMBOK 委員会、PFM & PGM 研究会、OPM3 研究会に所属。ITIL、itSMF のプログラム分科会に所属。ITC。電気通信主任技術者。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：6 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？【YES:6】

- ・ PM に関する諸ガイドの位置付け・考え方などが勉強できた。
- ・ ISO/ベストプラクティスの位置づけに興味を持った
- ・ 有益な講演でした

質問 2：今後も「PMAJ Networking（会員交流会）」に参加したいと思いませんか？

【YES：6】

- ・ 異業種などの自分では入手困難な情報や意見交換が出来る。
- ・ 一杯飲んでディスカッションする→Very Good!
- ・ テーマ次第です

質問 3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。

【良かった：4】【改善の余地あり：2】

- ・講演 1 時間は短いと思います。
- ・また、事前に皆がビールを飲んでしまうのは、いかななものかと感じます（議論が深まりません）
- ・ビジネスイノベーションを重点的に増やして欲しい
- ・事務局に感謝。

【対応策】

- ・ビール開始のタイミングは再検討したいと思います。次回の会合でご意見を伺います。

質問 4：会員様からの話題提供について？【良かった:5】【改善の余地あり:1】

- ・ガイドや標準を策定する側からの考え方や姿勢が多少なりとも理解できた。
- ・タイトルと **Portfolio Management** にフォーカスした内容に少々ギャップを感じましたが・・・
- ・事例提示がもっとあればもっと良くなったと思う
- ・もう少しゆっくり話して欲しい
- ・参考になりました。ありがとうございます。
- ・勉強になりました。

質問 5：Networking（参加者交流）について？【良かった：4】【改善の余地あり：1】

質問 6：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【良かった:5】【改善の余地あり：1】

質問 7：「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！（自由記述）

- ・今のやり方を勧めて下さい。
- ・参加メンバーが固定化している感があり、新規メンバーの勧誘・参加が必要なのではないのでしょうか。
- ・正直、一癖も二癖もある人が多く、仲間内の会合となっているので、若い人には敷居が高いと感じる
- ・交流会のお知らせは、協会の HP ですぐ分かるところにおいて、もっと上手に広報してください
- ・考えてみます。

【対応策】

- ・参加メンバーの固定化を打破するプログラムとプロモーションの企画・実施にチャレンジします。皆様からのご意見・ご提案を歓迎します。
- ・例えば、【独りで参加：1500 円／人】【二人で参加：1000 円／人】【三人で参加：500 円／人】という価格体系を検討する・・・次回の会合でご意見を伺います。

質問 8：「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【参加したい：2】【参加は無理：3】【その他：1】

- ・時間の許す限り参加できればと考えています。
- ・難しい

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（自由記述）

質問 10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

（自由記述）

- ・事務局に感謝します。
- ・以前も書きましたが、例会との使い分けがよく分かりません。

【対応策】

- ・例会との差別化の一つは「交流」にフォーカスするということです。この「交流」の中から、新しい何かが生まれることを期待しています。未だ、実現できていませんが・・・
- ・ワールドカフェ等を取り入れて、更に「交流」が深まるよう工夫してまいります。
- ・「PMAJ Networking（会員交流会）」の目的としましては下記を期待しています。

→継続的な学習の場の提供

→情報交換、ベストプラクティス交換、人脈構築、異業種交流、の場の提供

→会員相互の強みを活かし合った新たなビジネス開発の機会提供

→異業種間オープンイノベーションの為の「共創の場」の提供

→PMAJ の運営活動に対してのステアリング機能の発揮、

等々、皆様への価値の提供と交流の場となるよう進めてまいります。

ありがとうございました！

第 05 回「PMAJ ネットワーキング」2014 年 04 月 03 日（月）18：00～21:00

「夢工学式発想法によるビジネスイノベーションの実践」

・・by 川勝 良昭（経営コンサルタント（夢工学©）、韓国ソウル特別市・名誉大使&諮問）

・・・by（ファシリテータ）佐藤 義男（BI-SIG 主査、株式会社ピーエム・アラインメント）

（概要）

① 日本は、明治維新と戦時を除き、殆どの分野で現代史上初の「構造的危機」に直面し、今も脱出できない。もしそれらの分野が「自己改革（一種の革命）」を実行せず、「今のまま」で推移すると、日本はアジアの小国に凋落する。この事を私は 20 年前から主張し、昔は厳しく批判され、今は批判されなくなりました。

② この危機を脱出し、輝かしい日本を築く主体者は、政治家でも、官僚でもなく、企業人です。しかし「改善の経営」でなく、新事業を生み出す「改革の経営（ビジネス・イノベーション）」が不可欠です。この改革は優れた「発想（思考）」と真の「発汗（行動）」ができる人物によって初めて成功すると考えています。この考えによる、発想と発汗に役立つ「夢工学式発想法」をご紹介します。

③ 本発想法は、発想のルールやマニュアル等の面倒な習得は一切不要です。もし発想を生む「パワー」と発想の「原理」を知り、「発想促進方法」と「発想妨害排除方法」を実践すれば、「誰でも、何についても、いつからでも」活用できる発想法です。また本発想法を活用して私自身が発明した実例や新しく発想したコンセプトやアイデアによって実現した新しい事業プロジェクトの実例などをご紹介します。

④ 皆様どうか、本発想法をご活用され、「改革の経営（ビジネス・イノベーション）」を成功させて下さい。

（プロフィール）川勝 良昭

経営コンサルタント（夢工学©）、韓国ソウル特別市・名誉大使 & 諮問官、中国政法大学客座教授、プロジェクトマネジメント協会理事、各種企業の顧問。

以前、岐阜県理事、新潟県参与、新日本製鐵(株)、セガを歴任。岐阜聖徳学園大学、法政大学、東京大学、亜細亜大学、岐阜県立大学等の客員教授、特任教授等。

早稲田大学第一法学部卒。産官学の 3 分野を経験。既存事業の改善と新規事業実現が得意。専門分野は夢工学と夢工学式実践論（経営戦略論、ベンチャー起業論、エンタテイメント論、発想法、悪夢工学等）。

お忙しい中、「第 5 回 PMAJ Networking（会員交流会）-4/3」に参加頂きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：9 件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？【YES：9】

- ・楽しかった
- ・発想の基礎を確認した
- ・川勝氏のお話を伺えたので良かった
- ・自分に合った発想法を学ぶことが出来ました
- ・夢の具体的なアウトプットする重要性を学びました
- ・興味深い話題と和気あいあいとした雰囲気で大変盛り上がったと思います。
- ・やはり Live で聞くのと、紙・HP のジャーナルで読むのでは、伝わり方が違います。益々勉強したくなりました。

質問2：今後も「PMAJ Networking (会員交流会)」に参加したいと思いませんか？

【YES：9】

- ・多様な人と知り合える
- ・楽しく議論できた
- ・さまざまな業界の生の声を聞けるためになりました
- ・自分をポジティブな場所に置きたい
- ・いろいろな人のお話を聞けるので
- ・いろいろな業種の異なった考え方に触れる良い機会となるので
- ・続けて良いテーマの講演がありました。お世話様です
- ・今回はアンダー50 が結構参加されていたので良かった。
- ・短時間でのやりとりでは納得しない議論も、自分の常識を疑うきっかけになると思います。

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。【良かった：7】

- ・ざっくばらんに議論できた
- ・話が飽きずに全て聞けた
- ・プレゼンとネットワーキングのバランスがよかった
- ・歓談→講演→議論というのはよい流れだと思います

【改善の余地あり：2】

- ・議論の時間が短い気がする
- ・どのような設定でも改善の余地はあると思います
- ・参加者プロフィールを元に、最初 30 分自己紹介して、その後 30 分交流歓談、そして 1 時間の講演+質疑応答、時間の許す人は最後まで飲みながら、・・・位が良いと思います。

質問4：会員様からの話題提供について？

「夢工学式発想法によるビジネスイノベーションの実践」

川勝良昭様（経営コンサルタント（夢工学©）、韓国ソウル特別市・名誉大使&諮問）
（ファシリテータ）佐藤義男様（BI-SIG 主査、株式会社ピーエム・アライメント）

【良かった：8】

- ・実践で役立つ知識でした
 - ・書籍を読みたいと思います
 - ・周到にご準備くださり、感謝に堪えません
 - ・面白かったです
 - ・文字通り、川勝さまの長年思い続けた主張を聞けました
 - ・信念を簡潔にお話し頂いた上で、質問に対して否定すること無く答えられていた。
- 神様でなく生身の人間として尊敬できる方でした。

質問 5 : Networking (参加者交流) について? 【良かった : 8】

- ・ G o o d ! !
- ・人数がもう少し多い場合は、立食形式もあり得るかと思います
- ・アンダー50 は初回参加費割引があってもいいのでは?

質問 6 : 事務局対応 (会費、料理及び進行方法など) について? 【良かった : 9】

- ・ G o o d ! !
- ・温かい料理で美味しかったです
- ・大変お安く運営して頂いて感謝します
- ・今回は適切だったと思います

質問 7 : 「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい!

(自由記述)

- ・考えます
- ・テーマを設定して議論したい
- ・月並みですが、結局は人と人の交流ですので、多様な人が集まることと、面白い話題が鍵かと思います
- ・小さなグループにして、グループ討議の時間を入れるとさらに満足度が高くなると思います
- ・当日の写真やアンケート結果などを HP でもっと発信されたらと思います。若手のコメントを特に目立つように!

質問 8 : 「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか? 【参加は無理 : 4】

- ・他に引き受けていることがあるため
- ・出張や急な会議等があり業務が不規則のため難しい
- ・関西の運営で精一杯です

【その他 : 4】

- ・時間があれば・・・
- ・難しいですが、出来ることがあれば・・・
- ・出来ればお手伝いしたいですが仕事がコントロールし辛いのでお約束が出来ないです

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（自由記述）

- ・現在時点では特になし

質問 10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

（自由記述）

- ・事務局の皆様、アレンジありがとうございます。
- ・初参加でしたが、とても楽しめました。ありがとうございました。
- ・とてもよく準備していただいたと思います。ありがとうございました

ありがとうございました！

第04回「PMAJ ネットワーキング」2014年02月03日（月）18:00～21:00

「JICA 技術協力プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメント」

～ミャンマーIT人材育成プロジェクトを例に～

・・・by 増田 吉朗（独立行政法人 国際協力機構 総務部総合調整課）

（ファシリテータ：伊藤 毅 様（IC Net Ltd））

（概要）

「政府開発援助（ODA）の技術協力プロジェクトのプロジェクトマネジメントの現状と課題」について、下記の観点から発表を行います。

- ・ JICA は年間 600 件の技プロをどのように実施しているのか
- ・ 途上国の人材育成プロジェクトで直面する課題
- ・ プログラム化の深化に向けて

私は IT エンジニアから国際協力の道に転身し、プロジェクトの発掘、計画立案、発注、管理、ステークホルダーとの調整、評価、自立発展へとスキームモデルからシステムモデル、サービスモデルを包含した 13 ヶ国 30 件のプロジェクトに関与してきました。これまで担当した案件の中で様々な問題に直面したミャンマー ICT 人材育成プロジェクトを事例に、JICA のプロジェクトマネジメントの実情をご紹介します。プログラム化を推進している JICA における今後の課題について参加者の方々と意見交換できればと期待しています。

（プロフィール） 増田 吉朗

1999 年 ロンドンシティー大学経営学部卒業

大学卒業後、Beacon IT（独立系 SW パッケージ会社）に入社し、国内の DWH システム構築プロジェクトに従事。

2002 年 米国 TimeCube, Inc に出向。時制型 DB 英語版の開発及び技術営業

2005 年 独立行政法人 国際協力機構（JICA）に転職

情報通信案件を中心に、12 ヶ国 13 件プロジェクトに従事。

2010 年 3 月 JICA ナイジェリア事務所

事務所の管理運営及び 17 件のプロジェクトを担当

2013 年 3 月 JICA 総務部総合調整課

社内の各種規程管理及び緊急時業務継続計画（BCP）担当

2013 年 4 月 PMS 取得

過日には、お忙しい中、「第4回 PMAJ Networking（会員交流会）-2/3」に参加頂
きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・
ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいり
ます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：10 件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？【達成できた：10】

- ・ミャンマーのJICAのアクティビティは理解できた。
- ・JICAのソフト系ODAに関し、中堅の方から実情と見通しを聞くことができた
- ・JICAのODAの事例を聞くことができ、P2Mが貢献できる場所が大いにあることが確認でき、よかった。
- ・発展途上国への援助に興味がある
- ・P2Mの改訂概要は理解できた。
- ・会員の一部の方とも交流できた。
- ・プロジェクトマネジメントに関する皆さんのお考えの一端を感じることができた
- ・他分野のプロジェクトについての参考にできそうな考えの違い等少し感じる事ができた。

【対応策】

- ・今後もテーマ選びと双方向での議論の場を通じて交流が図れるように工夫する。

質問2：今後も「PMAJ Networking（会員交流会）」に参加したいと思いませんか？

【達成できた：9】

- ・もちろんです
- ・勉強になります
- ・得難い情報がえられる。すばらし皆さんに会える。
- ・参加者の専門領域の話を知りたい。
- ・広い業種の方から有益な情報が聞けそうだから
- ・2～3ヶ月に一度、このような交流会に参加させて頂くことで、大いに刺激を受けたいと思う
- ・もっと回数を増やした方が良いと思います。（たとえば月に一回ぐらい）

【その他：1】

- ・たまに

【対応策】

- ・交流が深まるように実施回数を増やしていく。（3ヶ月毎⇒2 or 1カ月毎へ？）

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。【良かった：9】

- ・P2M改訂のポイント、JICAの事例とも大変興味深かった
- ・データと裏話のバランスがよい。
- ・他の協会と比べて、どこよりも質疑が多いですね！

【その他：1】

- ・初めと最後に交流の時間があるのはいいと思う。

【対応策】

- ・今後ともファシリテータを置いて、双方向の議論が活性化するよう工夫する

質問4：今回の話題提供について？

【良かった：10】

- ・データと裏話のバランスがよい。
- ・国際協力の具体的な内容を伺う貴重な機会となった
- ・内容と増田さんの熱意に感心しました
- ・JICA さんの PM の進め方が良く分かりました
- ・JICA の ODA の事例を聞くことができ、P2M が貢献できる場所が大いにあることが確認でき、よかった。

【その他：1】

【対応策】

- ・今回も伊藤さん（アイシーネット）にファシリテータをお願いし、双方向の議論を盛り上げて頂いた。今後もこのような演出と準備に注力していきたい。

質問 5：Networking（参加者交流）について？

【良かった：8】

- ・質疑応答は面白かったです
- ・多くの方と名刺交換やお話をさせて頂き、普段は接点のない方々と繋がることができた
- ・2 回目ですが、顔なじみが増えてきた感があり、これからも楽しみです。
- ・得難い情報がえられる。すばらし皆さんに会える。

【改善の余地あり：2】

- ・メンバーが固定化しているような・・・
- ・元々面識のあるメンバー間でのコミュニケーションになっている。
- ・例えば話題提供の講演時間を 30 分程度にしてワールドカフェ的な意見交換の場を作ってみてはどうか

【対応策】

- ・少なくとも半分は新しい参加者になるように工夫する
- ・グローバル PM という話題が続いたので、新しい分野の新しい話題で企画する
- ・ワールドカフェ的なダイアログの場を工夫・演出する

(参考：ワールドカフェの 7 つの原理)

①コンテキストを設定する

- ・ダイアログを可能にするための目的と広範な要件を明確にする

②もてなしの空間を創造する

- ・個人的な快適さと、お互いを尊重する気持を育むことができるもてなしの環境と、心理的な安心感を確保する

③大切な質問を探求する

- ・協働を引き出すような強い力を持つ質問に対して、集合的に関心を高める

④全員の貢献を促す

- ・参画と相互支援を促すことによって、「個」と「全体」の関係を活性化する

⑤多様な視点を他花受粉させて、つなげる

・中核的な質問に対して共通の関心を高め、異なる視点のつながりをもつ多様性と密度を意図的に強めることにより、創発が現れる生体システムのダイナミズムを活用する

⑥パターン、洞察、より深い質問に共に耳を傾ける

・個々人の貢献を損なわずに思考の結束を育むことができるように、共通の関心事に焦点を当てる

⑦集合的発見を収穫し共有する

・集合的知識と洞察を可視化することによって行動に移せるようにする

質問 6：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【良かった：4】

・いつもありがとうございます。

・無理なく、リラックスして参加できる。

・冬の季節にはコート用のハンガーラックなどを廊下側に用意していただけると、もっといと・・・

【対応策】

・参加者人数に応じて、都度、料理や配膳を見直す

・コート用のハンガーラック又はクローク用のテーブルを準備する

質問 7：「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(自由記述)

・元々面識のあるメンバー間でのコミュニケーションになっている。

・上述のようにメンバーが固定してしまうと、新規の人が入りづらいかも・・・

・初めての参加者も受け込めるような雰囲気づくり

・はじめは敷居が高いと思いますが、一度慣れれば問題ないはずです。

・若手、女性を招待してはどうでしょうか？

・若者と女性の発表者・参加者を期待したい。

・もう少し女性や若い会員も参加しやすい雰囲気だといいですね。

・「悩み相談」なんて枠を設けてもいいかもしれません。

・テーマを決めたグループディスカッション（3～5名単位）

・例えば話題提供の講演時間を 30 分程度にして、ワールドカフェ的な意見交換の場を作ってみてはどうか

・年簡の実施予定を発表してほしい。早めに予定することで、出席者が増えると思う。

・ゲストスピーカーの招聘

【対応策】

・少なくとも半分は新しい参加者になるように工夫する

・グループ構成をシャッフルし、固定化しないように工夫する

・提供する話題のテーマを多岐に分散させ、固定化しないように工夫する

- ・若手・女性の参加につながるようにプロモーションに工夫する
- ・若手・女性との同伴での参加を促すようにインセンティブを設ける
- ・「悩み相談」「ワールドカフェ」的なファシリテーションを検討する
- ・年間の開催スケジュールを設定する
- ・ゲストスピーカーの公募・紹介を募る
- ・企画・運営機能を充実し、更に進化発展するように工夫する

質問 8：「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【参加したい：1】

- ・少し考えてみます！

【参加は無理：7】

- ・申し訳ありません、業務多忙につき・・・
- ・関西の運営に専念します。
- ・多忙なため、

【その他】

- ・この交流会と例会の位置づけの違いは何でしょうか？
- ・前回・今回の話など、いずれも例会での講演にふさわしいと思いました（というより、例会の講演はPM 業界からは遠いものが多いように感じています）。

【対応策】

- ・企画・運営を行なっていただく「幹事会」のようなものを組織化する

質問 9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（自由記述）

- ・スマホや SNS ビジネスの方の話を聞いてみたい

【対応策】

- ・ご希望・ご期待に沿うようスケジューリングしてまいります。

質問 10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

（自由記述）

- ・若者と女性の発表者・参加者を期待したい。
- ・交流会のお知らせが、PMAJ のホームページで見つかりませんでした。
- ・分かりやすい場所に啓示をお願いします。

【対応策】

- ・年間計画とスケジューリングに工夫します。次回は4月3日（木）です。
- ・この場から新たなマッチングによるビジネスが生まれることを期待しています。
- ・積極的プロモーションして頂ければ幸いです。

ありがとうございました！

第03回「PMAJ ネットワーキング」2013年10月18日（金）18：00～21:00

「プログラムのリスクマネジメント ～1.5兆円新空港建設の舞台裏～」

・・・by 大野 紳吾（マーシュブローカー・ジャパン）

（概要）

「プログラムリスク」とは、次のようなリスク事象を意味する。

- ① プログラムを構成する要素であるプロジェクト自体が失敗するリスク。
- ② 個別のプロジェクトにおいて適切と思われる対応が、プログラム全体から見た場合、新たなリスクをもたらす事象。
- ③ プログラムが志向する全体ミッションの方向性がさまざまな要因により狂い、初期のミッションとは異なった結果をもたらすというリスク。」

（新版 P2M 標準ガイドブック第7章リスクマネジメントより部分引用）

発注者側のプロジェクトマネージャとしてプログラムマネジメントを経験した中で、どんなリスクが顕在化し、その結果何が起こったのかについて情報提供した後、どんな代替策があったか、代替策に基づき異なる選択をしていればシナリオが変わっていたかについて参加者と意見交換を行う。

（プロフィール） 大野 紳吾

1997年京都大学工学部建築学科卒業、IE Business School（MBA）修了。

大学卒業後、清水建設に入社し、国内の建設プロジェクトの施工管理業務に従事。

2000年、米系エンジニアリング会社の Bechtel 社に転職。

中東の新空港建設プロジェクトにおいて、発注者の立場で企画・設計・入札・発注・工事監理を行うプログラムマネジメントのプロジェクトマネージャを経験した。

現在、外資系保険ブローカー会社のマーシュブローカー・ジャパンに勤務し、建設プロジェクトに関するリスクアドバイザーと保険ブローカー業務を行っている。

2010年 CM シンポジウム、2012年日本プロジェクトマネジメント協会 PM シンポジウム、2013年海外投融資情報財団セミナー、海外建設協会などで講演。

一級建築士、一級建築施工管理技士、シックスシグマ（グリーンベルト）。PMAJ 会員。日本コンストラクションマネジメント協会（CMAJ）会員。

過日には、お忙しい中、「第3回 PMAJ Networking（会員交流会）-10/18」に参加頂きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：9件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？

【①達成された：9】

- ・楽しい意見が聞けた
- ・リスクの事例を知ること、他の参加者と交流することができた。
- ・日本式プロジェクトマネジメント手法の一端が、垣間見られた。
- ・情報提供された大野さんの内容も興味深かったし、初対面のかたと知り合えた。
- ・初参加でしたが、とても有意義でした。
- ・意見がこれだけ活発に出る会はあまり参加したことがなかったです！
- ・海外での大規模 Project やお国の事情など想定していた課題や難しさ、対応を教えて頂き勉強になりました。

【対応策】

- ・今後もテーマ選びと双方向での議論の場を通じて交流が図れるように工夫する。

質問2：今後も「PMAJ Networking（会員交流会）」に参加したいと思いますか？

【①達成された：9】

- ・このような情報交換を望んでいる。
- ・色々な業界の方との交流ができる。
- ・今後も有益な情報が得られると考える
- ・次回はもっと参加したいです。
- ・他業種／分野での状況や課題点等、大いに参考となり、又会員様との交流が有効である。

【③その他：1】

- ・テーマに応じて参加を考える
- ・関心のある話題であれば参加したい。

【対応策】

- ・交流が深まるように実施回数を増やしていく。(3ヶ月毎⇒2カ月毎へ?)

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。

【①良かった：7】

- ・題材の提供も良かった
- ・限られた時間ということを考えれば、よかったと思う。
- ・特に時間配分は問題なかった。
- ・限られた時間内での対応構成、ご苦労様です。

【②改善の余地あり：3】

- ・18時スタートは間に合いません。
- ・プレゼン内容に対する質疑時間を十分にとれるよう、第3者のファシリテータを置いて、時間をマネジしたほうがよいのではないかと？
- ・会の構成は少し考えた方が良かったと思いました。

【対応策】

- ・時間構成を見直す。 話題提供は19時スタートにする？
- ・第3者のファシリテータを置いて、時間マネジメントを工夫する。

質問4：会員様からの話題提供：

「プログラムのリスクマネジメント ～1.5 兆円新空港建設の舞台裏～」大野 紳吾 様
(マーシュブローカージャパン) について？

【①良かった：10】

・ Good !

・ 短い時間内に良く整理されていた

・ おそらく発表者が論点としたかったことと、参加者の興味のポイントがずれていたのではないかと思う。その結果、参加者からするとちょっと情報不足と感じたが、これは仕方ないといえる範囲。全体的には整理された内容で、よかったと思う。

・ プロジェクトの成功を QCD だけで計るべきか、という重要な論点が浮き彫りになった。とくに、プロジェクトの途中で逃げ出さなかった竹中工務店の所作は、経営との観点で、もっと深堀したい。

・ 身近な問題であり、また発注者側の本音が垣間見られた。

・ 弊社はコントラクターの視点でこのプロジェクトを見てきたが、PMであるベクテル社の視点や、一般のエンジ企業の皆さんの視点から参考になるものがあった。

・ 良かったです、その理由は参加者からダメだしが出来る講師というのが初めてで新鮮でした (笑)。

・ 実戦での問題・課題など経験談など短時間の中に良く纏められており、顧客やお国の事情、日本人の気質など内容も大変勉強になりました。お礼申し上げます。

【対応策】

・ 今回は講師の事前準備 (例えば、PM 側だけの発表にせず、コントラクター側の視点も加えた、等々) が充実していたことから、議論が重層的・立体的になり、参加者満足向上につながったと思う。今後もこのような演出と準備に注力していきたい。

質問5：Networking (参加者交流) について？

【①良かった：8】

・ 交流できた

・ 時間が少なかったが、議論が盛り上がっていたので仕方ないだろう。

・ 十分全員の皆さんと名刺交換する時間があつた。

・ 積極的な参加者が多かったので楽しかったです。

・ 他業種の方々との情報・意見の交換が出来、有意義と思います。

【②改善の余地あり：1】

・ 現状で OK ですが、自己紹介も最初にやっておくと良いかも (資料と名前と顔をミートさせるため)

・ エンジニアリング、建築、IT に偏り過ぎ？

【対応策】

・ 最初に、簡単な自己紹介 (又は、他者紹介) を行なう。

- ・名前と顔をミートさせ、交流し易くする。
- ・エンジニアリング、建築、IT 以外の幅広い分野からの話題提供に工夫する。

質問 6：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【①良かった：6】

- ・最初からビールが出た
- ・十分でした！
- ・ご苦労様です。感謝申し上げます。

【②改善の余地あり：4】

- ・酒は不要では？
- ・かわきもの以外の料理は、余るので不要では？
- ・プレゼンの途中で中央のテーブルに料理を取りに行くのはやりにくいので、最初から全テーブルに分けてしまった方がよいのではないか。
- ・参加者に自発的に手伝ってもらうようにしたら事務局負担を軽減できるでしょう。

【対応策】

- ・料理と飲み物の構成を見直す。
- ⇒ケータリングは止め、「かわきもの」へ？
- ⇒ワイン等は止め、「ビール・ソフトドリンク」へ？
- ⇒次回のアンケートでご意見を伺い決定する

- ・配膳は各テーブルに分散する。

質問 7：「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(自由記述)

- ・取り敢えず、今回の継承
- ・目的が「場づくり」であれば今のようなやり方でいいのではないかと思う。
- ・3回目ということですが、こういうアンケート内容を反映して、いい方向に変えていけばいいと思います。
- ・自分としては満足しています。強いて言えばもう少し年齢差がある参加者がいても、と思いました。

【対応策】

- ・若い方々の参加を期待しています。
- ・お知り合いの方には是非ご紹介下さい。

質問 8：「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【①参加したい：2】

- ・可能であれば出来る限り！
- ・他業種・会員間の交流普及に役立てれば幸いです。

【②参加は無理：6】

- ・予定時間の調整が非常に難しい
- ・海外出張が多く物理的にいない。
- ・遠方かつ、業務多忙につき、ご辞退いたします。
- ・関西のKP会代表を務めているため、今以上の役割を担うのは難しい。

【③その他：1】

- ・何を頼みたいかを示して頂くと手伝いやすくなるでしょう。

【対応策】

- ・企画・運営を行なっていただく「幹事会」のようなものを組織化する？

質問9：次回の「話題提供者」として推薦（自薦・他薦）したい方をご提案下さい！

（話題提供者）

- ・参加者はスペシャリスト多いので、是非、やって欲しい。
- ・考える時間を頂きたく存じます。

（話題内容）

- ・JICAの技術協力プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントの実際と課題
（ただし、次回ということではなく、スケジュールの調整をさせて下さい）（伊藤さん）
- ・IT（クラウドサービスおよび情報セキュリティ）の最新トレンドおよびプロジェクトマネジメント（特に **Interface management**）への活用について、どなたかご教示いただければ幸甚です。（服部さん）

【対応策】

- ・ご希望・ご期待に沿うようスケジュールリングしてまいります。

質問10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

（自由記述）

- ・次の日程はできるだけ早く決めていただきたい。できましたら、年間計画をだしてほしい。さらに、金曜の夜は避けて欲しい。他のイベントが重なりがちなので。
- ・PMというのは多岐に渡りいろいろな業界の方がいらっしゃると思います。是非そうした異業種の中で、実際にお仕事をさせていただけるようになりたいと思いました。今後ともよろしく願います。
- ・事務局の方々にお礼申し上げます。

【対応策】

- ・来年から、年間計画とスケジュールリングに工夫します。次回は12月11日（水）です。
- ・この場から新たなマッチングによるビジネスが生まれることを期待しています。
- ・積極的プロモーションして頂ければ幸いです。

ありがとうございました！

第 02 回「PMAJ ネットワーキング」2013 年 06 月 26 日（水）18：00～21:00

「日立における PM 力強化の事業部門横断的取組み」

・・・by 岡田 公治（㈱日立製作所モノづくり戦略本部）

概要：

グローバル競争の下で環境変化が常態化し、全ての組織にとって、日常的に「変化」をマネジメントすることが求められています。その変化も大規模化・複雑化・緊急化し、従来の自社スコープのみでの対応が難しくなっています。このような背景の下に、新たな連携による取組みが模索されています。PMAJ にも多様な法人会員様がおられますので、同様のニーズが寄せられています。将来に向けた「共創の場（プラットフォーム）」として、「会員の会員による会員のための交流会」を構築していきたいと考えます。

つきましては、第 1 回目参加者からのご指摘を考慮に入れながら、下記の要項で「第 2 回 PMAJ Networking（会員交流会）」を開催します。お忙しい時期とは思いますが、奮ってお気軽に、参加いただきますようご案内申し上げます。

過日には、お忙しい中、「第 2 回 PMAJ Networking（会員交流会）-6/26」に参加頂きましてありがとうございます。如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしく願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：10 件）

質問 1：参加の目的・期待は達成されましたか？

【①達成された：8】

- ・活発な意見交換ができました。
- ・様々な方とお話する機会を得たことは、非常に有益だった。
- ・出席者の思考のレベルが判り、自分の着眼レベルの見直しを反省させられた。
- ・日立さんの PM 力強化への取組みとプログラムマネジメントへの姿勢が大変参考になった。講師岡田さんに感謝。
- ・他事業分野／他社との交流が出来た。
- ・様々な企業の話が聴けました。
- ・参加者が前回より交流していたように感じた。
- ・まずはこんなものかと。参加者が次第に馴染んでくるのを期待。

【対応策】

- ・今後も話題提供と交流のあり方に工夫する。
- ・交流が深まるように実施回数を増やしていく。

質問 2：今後も「PMAJ Networking（会員交流会）」に参加したいと思いますか？

【①参加したい：8】

- ・自分のイメージの枠を超える着眼テーマ設定の発想を得られた。
- ・継続的に様々な方と情報交換できる場があることは有り難い。
- ・他事業分野／他社での取組みや状況・課題等の情報交換が出来る。
- ・個人的にネットワークを作るのはむつかしいので。
- ・会の体裁が整ってきたように感じる。
- ・価値を提供できた気がする ⇒ アンケートで確認したい
- ・これが協会／フォーラムが狙うところかも。

【対応策】

- ・今後も話題提供と交流のあり方に工夫する。
- ・交流が深まるように実施回数を増やしていく。

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。

【①良かった：8】

- ・講義、フリートークの両方があり、食事やお酒もあったので、和やかな雰囲気だった。
- ・絞られたテーマに関する自由闊達な意見交換・会話が出来る。
- ・ワク組みは良かった。
- ・流れに任せるのも良いと考えます。
- ・こんなものか！

【対応策】

- ・今後も話題提供と交流のあり方に工夫する。
- ・交流が深まるように実施回数を増やしていく。

質問4：会員企業様からの話題提供：

「日立におけるPM力強化の事業部門横断的取組み」の紹介（岡田公治様）について？

【①良かった：7】

- ・素晴らしい！
- ・大変参考になりました。
- ・多くのポイントで非常に参考になった。
- ・日立さんでの取組み姿勢と課題等をよく整理されわかり易く説明頂いたので、理解でき良かった。
- ・素晴らしかった。こんな話はなかなか聞けない。
- ・内容の細部はともあれ、このような活動が現に進められていることを知るだけでも価値あると思います。

【②改善の余地あり：1】

- ・「現場に落とし込むにはどうしたらいいか」を、集まった方々でアイデア出し出来るのもっと良かった
- ・講師に質問が集中する時間があり、講師が辛そうに感じた。
- ・折角の講師からの質問、問題提起があったので、その場合「ダイアログの場」を提供した

い

【対応策】

- ・話題提供を起点として、ワークショップ等のイベントを加えるか検討する
- ・「ダイアログの場」を提供する？

質問 5：事務局からの話題提供（吉野事務局長）について？

【①良かった：6】

- ・事例は大変参考になりました。
- ・日揮時代の貴重なご経験を拝聴することができた。
- ・プロジェクト運営の難しさを改めて感じる事ができた。
- ・聞く機会のない他業種での経験談を交えた内容が面白く良かった。
- ・ベネズエラでのプロジェクトの話は、これから海外 EPC に取り組んでいく上で、大変有益でした。

【②改善の余地あり：3】

- ・プラントエンジニア界の PJ の姿が描けるように前置きや環境説明が欲しかった。
- ・話題としては楽しいが、PMA J の視点としてはどうか？
- ・資格試験や書籍、研究会報告書に絡めた話題が良いかも？

【③その他：1】

- ・プラント色が強すぎたかな。

【対応策】

- ・協会のイベントや計画を紹介し、ステアリングを受ける場にする？

質問 6：Networking（参加者交流）について？

【①良かった：6】

- ・参加者同士で対話が進むように、顔馴染むになるための開催回数を増やして欲しい。
- ・楽しかったです。

【②改善の余地あり：2】

・活発な意見交換ではあったが、議論が発散して、雑談に近い状態になってしまったのが残念。

- ・今回は余裕をもって交流できたように感じた
- ・同じテーブルだけでなく、途中シャッフルする仕組みがあると良いかも？

【対応策】

- ・交流を活性化するための工夫をする
- ・他のテーブルとのシャッフルを検討する

質問 7：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【①良かった：6】

- ・1,000 円で、これだけの場を提供するのは至難の業。
- ・リーズナブルと考えます。

- ・ご苦労様です。お礼申し上げます。
- ・とりわけ皿があったのはよかった。

【②改善の余地あり：1】 ・とりわけ用のスプーン、箸、紙タオルはもらえるか？

- ・時間コントロールが出来なかった…基準が必要？
- ・乾杯の前に主催者あいさつがあると良いかも。
- ・PM メンターを募集しても良いかも
- ・川勝さんの記事紹介は何故実施？ … うまくやらないと伝わらない。
- ・参加者が自分たちのアピールを始めたけど、それは有り？

【③その他：1】

【対応策】

- ・時間管理とファシリテーションに工夫する
- ・乾杯の前に主催者挨拶を追加する

質問 8：「(参加者満足度) 最高の会員交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(自由記述)

- ・参加者同士が親近感を持つ「話題提供」が出来ると良い。その為には講義形式よりワークショップの方が良い (共同体験を持つため)

【対応策】

- ・交流を深めるための「ワークショップ」を検討する

質問 9：「会員交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【①参加したい：2】

- ・ご期待に応えられるかどうかはわかりませんが、P 2 M活用の相互理解や普及の為には、親睦も含めた実務ベースでの率直な意見や情報交換が大いに役立つと思います。
- ・参加していますが、事務局として参加するメリット (価値) は？…「会員交流会」をデザインできる事？

【②参加は無理：4】

- ・業務の都合で難しいです。
- ・現業が多忙で、お手伝いする余裕がありません。申し訳ありません。

【③その他：2】

- ・作業内容について、一度話を聞く機会があれば・・・。
- ・質問 10 に記載のコメントに絡んで、関わりが出てくれば協力させていただきます。

【対応策】

- ・アンケート等を通じて、企画案等を募る
- ・企画に参加できるように「幹事会」等を検討する

質問 10：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

(自由記述)

- ・ネットワーキングでいろいろ話し合えました。どうもありがとうございました。
- ・是非、継続して下さい。
- ・少し、コンサル側の立場の人が多く感じます。
- ・自己紹介の書きっぷりの違いが大き過ぎるように思います。また、配布はされましたが、余り目を通す時間が無かったように思います。

○次もやりたい事(keep)

- ・今回の式次第
- ・料理の取り皿(紙皿不要)
- ・島を4つに乾きもの4つ、中央にお料理とお酒、ドリンク
- ・話題提供者の困りごと提供…異業種に聞きたい事

○改善したい事(problem)

- ・話題提供者への質問集中
- ・料理の付けたし (スプーン、紙フキン、菜箸)
- ・とっさの時間管理

○チャレンジしたい事(try)

- ・話題提供者の困りごと解決
- ・この会からビジネスを創造する
- ・企業会員をご招待する

☆「交流会」を“現在”必要としていない方は？

- ・企業所属、外部に興味が無い、上司の命令が無い、価値を感じない…受け身姿勢の方

→ “必要性”を感じさせるムーブメントを如何にして起こすか。

…P 2 Mを用いてデザインしたい

・PMAJ の SIG 活動として、以前に PMRC を興したが時期尚早であったためか、次第に活動が衰退したため休止している。当時収集・計画した資料は残っているので本活動に利用できるか否か、調査する価値あるかと思います。

【対応策】

- ・自己紹介（プロフィール）の記述方法を整合させる
 - ・自己紹介（プロフィール）は事前に参加者に配布する
 - ・形に囚われず、フィードバックを受けながら改善を加える
 - ・認知向上の為のプロモーションを工夫する
 - ・「継続は力なり」を信じて、コンスタントに継続する
 - ・PMAJ Networking の目的・目標に就きましては、多種多様な会員の相互交流を通じて、
- ①情報交換、ベストプラクティス交換、人脈構築、異業種交流、の場の提供
 - ②会員様相互の強みを活かし合った新たなビジネスの開発の機会提供
 - ③異業種間オープンイノベーションの為の「共創の場」の提供
 - ④協会運営に対するステアリング機能の発揮

⑤「会員の、会員による、会員のための交流会」の実現、

⑥「会員への価値提供」を通じて会員増につなげる
等を期待しています。

ありがとうございました！

第01回「PMAJ ネットワーキング」2013年3月29日（金）18：00～21:00

① 新刊「IT分野のためのP2Mハンドブック」の紹介

・・・by 佐藤 義男（株式会社ピーエム・アライメント）

② 新刊「プロジェクトの概念－PMの知恵に学ぶ」の紹介

・・・by 光藤 昭男（PMAJ 理事長）

過日には、年度末のお忙しい中、「第1回 PMAJ 異業種交流会・3/29」に参加頂きましてありがとうございます。トライアルとしての実施でしたが、如何でしたでしょうか？ 下記の如く、様々なご意見・ご感想をお寄せ頂きましてありがとうございます。今後の企画・運営に活かしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お寄せ頂きましたアンケート結果は、下記の通りでした。（総数：10件）

質問1：参加の目的・期待は達成されましたか？

【①達成された：1】

・弊社メンバーが多かったため、異業種の人との交流という点では物足りない点がありましたが、特定の方とゆっくりお話をすることができた点は良かったです

【②達成されなかった：3】

・参加者全員と名刺交換できなかった

・「コミュニケーションは重要、交流は大切」と同会で発言する人もいた。しかし全く交流会でなく、発表会であった。皮肉な事に同会が終了した後、名刺交換になって初めて本当の交流が行われた。このやり方では誰も参加してこない。

・IT系の方が殆どで異業種間とはいえ、また自己紹介ばかりで交流も出来ず残念でした。（自己紹介時の質疑応答を交流とお考えであれば仕方ありませんが）

【③その他：2】

・もう少し、多くの方と交流したかった（時間的に無理ですが）

・出席いただいた会社の情報が会社名と部署、担当名しかなかった為。

【対応策】

・交流会中心のプログラム構成に見直す

・配布資料に参加者のプロフィールを充実する

質問2：今後も「PMAJ 異業種交流会」に参加したいと思いますか？

【①参加したい：4】

・新しい人脈が作れそうな気がする。

・いろいろな会社の方と交流を広げたい。

・社外の色々な方との交流は重要であると考えております

【②参加したくない：2】

・交流会ではないから。真の交流会にするには、PMAJ が参加者を紹介し、簡単な話題提

供をするだけ。交流会参加企業のどこかに話題提供をさせると、「自社宣伝」にならざるを得ない。他の参加企業にとって「シラケ」るだけ。興味ない人には「退屈」なだけ。PMA Jが当該企業を紹介する。紹介された企業にとっても名誉になり、客観性が生まれる。とにかく建前を捨て、「本音と本気」が交流会から生まれれば成功する。交流会は最初にPMA Jが参加者紹介とサプライズを提供し、後はアルコールを入れてガヤガヤ会話をすれば、楽しくなるだろう。次回の交流会を成功させないと、後は続かない。

・1社の多数出席、且つその会社だけが製品紹介をも含むプレゼンを許された為、その会社主催の営業の場と見えてしまった事が結果的に残念でした。

【③その他：0】

【対応策】

- ・自己紹介や自社宣伝は避け、「本音と本気」の交流会にする
- ・各社からの参加者数を「2名以下」とする
- ・製品紹介等のプレゼンは許可しない
- ・事務局のプログラム能力とファシリテーション能力を強化する

質問3：プログラム構成（全体）についてお尋ねします。

【①良かった：0】

【②改善の余地あり：6】

・他社の方と交流できたのはカタル現場紹介後の数分だけでした。冒頭にも書きましたがこれを交流会とは言い難いと考えます。

・真の交流会にすべき。自己紹介は時間の浪費。内容にバラ付き、プレゼンの巧拙があり、最も行ってはならない方法。クラス会なら自己紹介は面白い。しかし異業種交流会なら他者紹介が当然。何故なら客観性とレベル統一性があるから。

- ・ワークショップが良かった
- ・もっと気軽に参加できる雰囲気がほしい
- ・フリーの時間をもっと増やしてほしい。
- ・自己紹介終了後の懇親会の時間が若干短かったような気がします

【③その他：0】

【対応策】

- ・自己紹介→他者紹介に変更する
- ・フリーな懇親会の時間を増やす
- ・ワークショップ等の交流の場を検討する

質問4：「新刊「IT分野のためのP2Mハンドブック」の紹介（佐藤義男）について？」

【①良かった：3】

・時間制約の中で良い説明だった。具体的事例を示し、理論的説明（具象→抽象）に持って行ければ最高！しかし時間が30分では無理かも。筆者は、PMA Jの理事をしている。この本をPMA Jで割引で買える。しかし敢えてジュンク堂で買うことにした。それだけP

Rになるからだ。PMA Jを支援する人は是非この様にして欲しい。

・永遠の課題とも思えるシステム製作時における IT サイドが顧客の業務やニーズを捕らえきれない部分を補う機能の進化が感じられ、興味深く聞かせて頂いた。

・書籍の内容がよくわかり、購入しました

【②改善の余地あり：0】

【③その他：2】

・まだ、読み終わっていないので、わかりませんが少し難しそうに感じました。

・残念ながら参加できませんでした

質問5：「新刊「プロジェクトの概念—PMの知恵に学ぶ」の紹介（光藤理事長）について？」

【①良かった：3】

・光藤理事長がピンチヒッターとして急遽説明したとのこと。分かり易く見事な説明だった。この本を上記の目的から、書店で買うことにした。

・このような取り組みをなさっている事を始めて知り、これも興味深く聞かせて頂いた

・このような書籍で大学の講義が行われていることを知ることができてよかったです

【②改善の余地あり：0】

【③その他：2】

・これから読みますので内容は分かりませんが、こちらの方が現在の仕事に直結している感じがして理解しやすそうでした。

・ほとんど終了時に参加したので内容がわかりません

質問6：②参加者自己紹介と Q&A について？

【①良かった：1】

・今回は人数が少なかったのですが良いと思いますが、人数が増えてきたら、やり方を変えた方が良いかもしれません。

【②改善の余地あり：5】

・「話題提供」になっていなかった。…そこから各テーブルで会話があっただろうか

・上記の通り。自己紹介自体を止める。主催者による他者紹介（被紹介者を起立して貰う）

・自分を含め話が長く飽きた。

・ちょっと長かったように思います。

・最初にやったほうが良かった。

【③その他：0】

【対応策】

・自己紹介は止める

・参加者紹介は最初に行う

・時間管理を徹底する

質問7：③参加者交流について？

【①良かった：1】

・他の会社の人とお話が出来て良かったです。勉強になりました。

【②改善の余地あり：5】

・最低の交流会だった。これでは単なる「説明会」と「自己紹介と質問の会」交流とは1対1の対話。興味のない、関心が薄い話題など誰も聞きたくないのが「本音」では。PMA Jに参加する人達は、勉強家で真面目な人が多い。元来日本人は世界で最も発言しない、おとなしい民族だ。この性癖と行動が逆にPMA Jだけでなく、この国の在り方を歪めてしまう。このアンケートにも「ズケズケ」本音を書く人はいないだろう。筆者はストレートに書いているが、同じ思いをしているアンケート回答者がいるかもしれない。

- ・交流していない。バタバタと名刺交換のみになった
- ・数分しかなかったのでコメントのしようがありません。
- ・ちょっと短かったように思います。
- ・参加企業数が少ない。

【③その他：0】

【対応策】

- ・1対1の交流の時間を増やす
- ・説明会と自己紹介と質問の時間を少なくする
- ・参加企業数を増やす

質問8：事務局対応（会費、料理及び進行方法など）について？

【①良かった：4】

- ・1000円の参加費でこれ以上は望めないのでは。
- ・会費は安くて良かった。
- ・良かったと思います。
- ・会費も安く、気軽に参加できます。随時、ビールを供給されていたようで、ありがとうございました。

【②改善の余地あり：2】

- ・事務局関係を紹介する必要あるか？結婚式でスタッフが紹介されるようなもの。
- ・質問も都度されるとぐったりする
- ・会費、料理、飲物は問題ありませんが、3分とは思えない長いスピーチや宣伝を許す進行と企画に疑問を感じざるを得ませんでした。

【③その他：0】

【対応策】

- ・事務局のファシリテーション能力を強化する
- ・事前の準備とシミュレーションを徹底する

質問9：「(参加者満足度) 最高の異業種交流会」へと進化させるためのアイデアがありましたら、教えて下さい！

(自由記述)

・それぞれの会社を知ってもらうことは重要だが、宣伝では交流とならない。企業（の中の個人）からの課題や問題提起とディスカッションなどどうでしょうか？

・「使命」と「戦略」を明確にして、再デザインする

・PMA J個人会員

PMA Jが幾ら高邁な目標を掲げ、優れた工学や技術の研究と啓蒙をしても、PMA Jを支える個人が存在しなければ、PMA Jは、「砂上の楼閣」になってしまう。PMA Jに加入し、年会費を支払っている個人こそ最も重要な存在である。彼らにPM資格の授与、PM技術の授与など理性的充足だけでなく、PMA Jに加入して「楽しい」、「ウキウキ」という感性的充足を与えれば、会員への「顧客満足」となるのではないか。

・筆者は、PMメンターを仰せつかっている。今回もその立場で異業種交流会に参加した。しかし交流が無い以上、メンターの役割も果たせなかった。また誰もそんなことすら期待していなかった。大変厳しい言い方で、許して欲しいが、個人会員への価値創造や各種交流会などに関して、P2Mや伝統的PMの「考え方」と「方法論」を適用して、成果を出すべきではないか。でないとPMA JはPMを世の中に訴える資格はない。

・PMA J法人会員

PMA Jの法人会員へのサービスが欠落している。最も高い年会費を支払っているのだ。

「顧客満足」の観点から徹底して法人会員へのサービスを考えることである。法人会員に満足して貰うため今回の「異業種交流会」が開催されたと聞き及んでいる。大変結構なことである。

法人会員へのサービスとして「訪問講演」を実施してはどうか。法人会員企業に出向き、講演をするなら、集客作業、会場設定、PRなど一切しなくて、講師を選び、講師を派遣するだけで良い。法人会員は高い年会費を払っているのだから無償で講演してはどうか。

1にも2にも法人会員が「ありがとう」と喜んでくれることである。

本会終了後、本当の「交流」が行われた時、某社の某人物から「私の会社で講演して欲しいです」と言われた。「無償でOK」と言ったところ「是非」と嬉しそうな笑みが出た。「法人会員向け無料訪問講演」として実験的に実施してはどうか。PMA Jからも講演料など貰う積りはない。

・時間は全部で2時間くらいが妥当。講演も30分程度のもの1本で十分。1社からの参加者は2名程度に押さえ、自社説明は代表者が簡潔に行うだけで宜しいかと。また個別の業者が宣伝のために開く会ではないので、物売る側からの連絡は控え、買う側からの連絡から発展するWin-Winの関係を目指すべきかと。

・他の異業種交流会に出席した時に良いと思ったことを記述いたします。事前に参加される会社の参加者リストが欲しいです。簡単で結構ですので、どのような会社で、どのようなことをしている会社か事前にわかれば準備できるものがあるかもしれません。イメージ的には、会社概要の抜粋版のようなものになります。以前は良く三井生命主催の交流会に出席していたことがあり、そのような資料を事前にいただいていた。（その時の交流会規模は

200社ぐらい集まる交流会でしたが。)

・今回は書籍の紹介をされていましたが、協会で入手しているプロジェクトマネジメントに関する最新情報や最新手法等を講演して頂けると興味深く聞くことができるのではないかと思います。

【対応策】

- ・「使命」と「戦略」を明確にして、再デザインする
- ・PMA Jに加入して「楽しい」、「ウキウキ」という感性的充足を目的とする
- ・個人会員及び法人会員への価値創造や各種交流会などに関して、P2Mを適用する
- ・「法人会員向け無料訪問講演」を検討する
- ・時間は2時間として、話題提供は30分程度のもの1本にする
- ・1社からの参加者は2名程度に押さえる
- ・売る側からの発言は避け、買う側からの発言を起点とするよう努める
- ・win-winの関係構築を目指す
- ・事前に参加者リストと会社概要の情報を配布する
- ・協会からの最新情報や最新手法等を提供する

質問 10：「異業種交流会」の企画・運営に事務局として参加頂けますか？

【①参加したい：0】

【②参加は無理：2】

・申し訳ありませんが、業務の状況を考えると、ちょっと無理そうです。

【③その他：3】

- ・時間が無い。参加は無理と断定できないが、日時に依る。
- ・平日、9時～18時が勤務時間で残業することもあるので参加したいがあまりお役に立てそうにありません。
- ・日程が合うようでしたらお手伝いさせていただきます。

【対応策】

- ・メーリングリストベースで企画立案にご協力頂く
- ・参加可能な方の当日ボランティアをお願いする

質問 11：その他、どのようなことでも結構です。ご意見・ご提案をお寄せ下さい！

(自由記述)

・法人会員が対象ということですが、いきなり集まってくださいというより各企業と事前の打ち合わせ(ヒアリング)をしたらどうでしょうか。企業ごとに要望も違うと思います。個別の打ち合わせの中で交流会の参加を呼び掛けたほうが参加企業も増えると思います。

【対応策】

- ・会員企業様のニーズを事前ヒアリングする
- ・個別に交流会への参加を呼び掛ける

ありがとうございました！

【対応策】 サマリー

- ・「使命」と「戦略」を明確にして、再デザインする
- ・交流中心のプログラム構成に見直す
- ・事前の準備とシミュレーションを徹底する
- ・会員価値を高める
- ・個人会員及び法人会員への価値創造や各種交流会などに関して、P2Mを適用する
- ・事前に参加者リストと会社概要の情報を配布する
- ・配布資料に参加者のプロフィールを充実する
- ・各社からの参加者数を「2名以下」とする
- ・1社からの参加者は「2名以下」とする
- ・製品紹介等のプレゼンは許可しない
- ・売る側からの発言は避け、買う側からの発言を起点とするよう努める
- ・事務局のプログラム能力とファシリテーション能力を強化する
- ・事務局のファシリテーション能力を強化する
- ・自己紹介は止める
- ・自己紹介や自社宣伝は避ける
- ・自己紹介→他者紹介に変更する
- ・フリーな懇親会の時間を増やす
- ・ワークショップ等の交流の場を検討する
- ・参加者紹介は最初に行う
- ・参加企業数を増やす
- ・個別に交流会への参加を呼び掛ける
- ・会員企業様のニーズを事前ヒアリングする
- ・時間管理を徹底する
- ・時間は2時間として、話題提供は30分程度のもの1本にする
- ・説明会と自己紹介と質問の時間を少なくする
- ・1対1の交流の時間を増やす
- ・「本音と本気」の交流会にする
- ・PMA Jに加入して「楽しい」、「ウキウキ」という感性的充足を目的とする
- ・「法人会員向け無料訪問講演」を検討する
- ・win-winの関係構築を目指す
- ・協会からの最新情報や最新手法等を提供する
- ・メーリングリストベースで企画立案にご協力頂く
- ・参加可能な方の当日ボランティアをお願いする
- ・2時間程度で中締めを入れる
- ・協会からの連絡事項は、中締め後に行う

- ・会の名称を、「PMAJ Networking（会員交流会）」に変更する